343

特247
777

現代の歐洲

曾我部重太郎著

②

0000817000

0000817-000

特247－777

現代の欧洲

曽我部重太郎・著

愛媛県越智中学校

昭和１３

AAB

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第６７条の規定に基づき、平成１２年３月２３日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。

特247
747

はしがき

此の小著は現下の歐洲問題鳥瞰の心算で編したもので大體世界大戰以後をその範圍とした。引用する所の書目は一々其の名を擧げないが先輩各氏の著書で、特に母校教授時野谷博士のもの、村川博士のものが多い。特に記して敬意を表する。

内容自ら雜駁の觀あり。叙述方法にも考ふべき所がある。是等は後日稿を改めるとき訂正したいと思ふ。

昭和廿三年六月下浣

著書識

現代の歐洲　目次

一、序論……一
　a、住民……四
　b、國家……六
二、歐洲平和の本質……八
　a、民族主義……八
　b、國際聯盟と英佛……九
三、現狀維持的國家の動向……一五
　a、世界經濟會議の不成功……一五
　b、英國の自由貿易政策の廢棄……一七
　c、アイルランド問題……二〇
　d、軍備縮小會議の失敗……二四
　e、佛國……二七
四、國家社會主義と自由主義……三〇

a、獨佛の對抗……三〇
b、ボーランド廻廊問題……三八
c、防共協定の成立……四〇
d、獨墺合併……四一
e、獨、チエコ・スロヴウキヤの關係……四五
f、イタリヤ……四七
g、佛伊關係とエチオピヤ……五一
h、トルコの發展……五五
i、西班牙の內亂……五九
五、孤立國家と東洋……六四
a、米國……六四
b、露國……七〇
c、日米露の關係及東洋……七四

……目次終……

一、序論

方法は學問に對して何よりも先づその學問の意義と態度とを規定する。而して方法論が一般に空疎なる形式主義と效果なき準備的詮索とを意味し易い現今に於いてもなほ方法は學問にとつて常に指導的なる意味をもつてゐる。我々が事物を觀察するとき、事物は時として自然的なる態度から、時として心理學的なる立場から眺められ、さうして研究せらるゝであらう。此の兩者を併せ採る態度こそ、歷史研究にふさはしきものである。

最近の世界は要するに不安の一言につきる。世界大戰による社會狀勢の大變動は、自然思想上にも動搖を來し、露國の標榜する共產主義は、獨裁主義と兩極端をなしてその間一脈相通ずるところもあり、その他幾多の中間的思想も亦擡頭し、思想界もまだ國際政局と共に混沌狀態にあり、世界人心を極度に不安に驅つてゐる。具體的に云へば、現今の歐洲國際政局の研究は、一九一九年（大正八）六月二十八日の對獨ヴエルサイユ條約より始めねばならぬ。此の條約こそ、此の不安の源である。此の條約には當時の米國大統領ウツドロー・ウイルソンの唱へた民族自決主義も多分に考慮せられてゐるが、同時にドイツの復興と復讐とを極度に恐るゝフランスの對獨抑壓方針がより以上重きを爲してゐる。

固よりこの不安は頓て將來に意義ある發展を產み出す原因には相違ないが、現在の場合確かに「不安」の

情勢は顯著である。蓋し從來の狀態に何か不合理の事情があつてそれが變改を欲して已まないものがある場合、所謂「世界の平和」に何等かの無理のあつた場合、そこに「世界の不安」は常に伴つて來る。

四箇年半の世界大戰は、數百年來養はれ來つた民族的反感を熾烈にこそはしたれ、これを清掃解消するには少くも役立たなかつたこと、また世界大戰直後、勝利國側において定めた各國の權利と義務とを永久不變のものとし、換言せば進化流轉する世界を人爲的に繫ぎとめ、これが變更を企つるものは、理非の如何を問はず、侵略者、世界平和の敵として、共同的に抑壓せんとしたこと、また西洋諸國が精神的並に物質的生活の基調と國際情勢とを全然異にせる東洋諸國をも一律に規約の中に取り入れて、世界全體の平和を圖らんとしたこと等において、國際聯盟に大なる無理、矛盾の存在することが、大戰直後から曝露し來つた。

大戰中から頻りと唱へられた民族自決主義は、十九世紀の民族主義の連續で、偶々戰爭の機會に乘じて高調されたのであり、その結果、多くの小民族國家が育成され、なほ民族獨立の要求が世界各方面に叫ばれて中には大ドイツ帝國建設の如き大民族統一の希望もある。既存の民族國家、また主要民族を中樞とする諸國家は、何れも國權擁護と國力維持に努め、殊に政治上特異な獨裁主義の流行を見るに至つた。更に大戰に示された民衆の力の偉大さ、その民衆の甚だしき窮狀から、傳來の民主的傾向は一般の發展を示し、英國に於いては勞働黨の活動となり、普通選擧は世界の各國に實施された。民衆自由の精神の極まるところは、社會主義の隆盛となり、ロシヤ共產主義の如き急激なるものも現はれた。一方大戰の慘害を目擊した世界の各國は、愈々戰爭防止の必要を感じ、而も通信、交通の發展から、地球面の縮小と、相互の和親をひき起し、ここに國際協調主義が急激に隆盛となり、或は國際聯盟の成立となり、或は軍備縮小の會議となり、諸種の平和運動や、國際競技の如きもこの精神の現はれである。

たゞこの大きな急潮の間にあつて、アメリカ大陸に據る合衆國が、ルーズヴエルト大統領の民主黨の治下にあつて、米大陸以外に濫りに干涉しない消極的態度を守つてゐることが、又注目さるべき一事實である。但、國際局面は絕えず變化する。今日の靜が明日の動となり、今日の敵が明日の味方となることは、國際關係の常識であることを知らねばならない。

又歐洲の不安といふことにつき考へるに、かの大戰後特に目醒ましき躍進に一世の耳目を聳動するに至りし獨伊などの國家社會主義と、民族的差別、國民的對立を撤廢せんとせる世界的社會や人類的社會を實現せんとする國際主義との對立が不安それ自身であるとも云へる。又此の國家社會主義は各民族の生活形態について、全體主義と反個人主義とを主張し、更に經濟上、反資本主義を主張するものであるから、明かに社會主義の傾向を帶びるとは云へ、一面にマルクス流の如き國際主義と階級鬪爭主義を推稱せず、寧ろ此の點において、マルクス流の社會主義から遠ざからうとする特質を有する。併し所謂國際主義を排して民族主義を高調するところに人類の動向に卽する强味がある。かくて階級鬪爭主義の跳梁せる露國は却つて世界の舞臺から姿を消さんとし、唯々一九三七年の世界は個人主義や國際主義の橫溢せる英佛と獨伊とがガツチリと組

んで今年を迎へたのである。而して今年の此の兩者の接觸の中心ともなるべき大問題はドイツの植民地返還要求であらう。

a 住民

今歐洲の住民のみにつきて大觀するに、その總數四億八千萬、密度は各大陸中第一で海外への移住者も多い。大部分はヨーロッパ人種で、住民の九割餘を占め、そのうちを三大種族に分つことが出來る。特に現今最も優勢なものはチユートン族で、ラテン族は概ね昔日の隆盛を恢復すること難く、スラヴ族はその發展が未知數、或は發展は難いのかも知れない。

チユートン族は中部、北部のベルギーからスカンヂナヴイア半島に至る陰濕、瘠薄の地に住む、體軀長大强健、文化、教育の普及著しく、常識に富み、研究思索に長じ、實務にすぐれ勞働を好み商工業に堪能である。固有の言語、文化に古代ローマの影響を受け、古來部落自治の習慣があるので立憲政治が早くから發達し、新敎を奉ずる。もとは人口の增加が極めて速かで、海外移住も盛であり、植民事業に長じてゐたが今は殆ど增加しない。英、獨人はその代表である。エヂプト、バビロニヤの文化は、ギリシヤ族、ラテン族に傳へられ、更に北歐民族に培養されて現今のチユートン文化となつた。從つてチユートン族の定着せる西歐は本洲に於ける人口、文化の重心であるばかりでなく、遠く海を越えて、アメリカ文化をも展開してゐるのである。

ラテン族は西南部に住し、身體稍々低く、又溫暖、快晴の地に住んで、性快活社交に長じ、且つ古代ローマの文化を受け、ラテン語より轉訛した言語を用ひ、早くから開け、文學を愛し美術に長じてゐる。多く舊敎を信じ人口は伊太利を除き殆んど增加しない。佛、伊人はその代表である。

スラヴ族は大陸の東半に住み農業を主とする。東ローマの文化を傳へ、ギリシヤ文字を用ひギリシヤ敎を信ずる。アジア人種の血統文化を混へ、體軀强健忍耐力に富むが、東歐に僻在するため、その風俗著しく他の二種族と異り、文化の發達又遠く及ばず、その政治も大抵は少數者の獨裁である。この種族は人口の增加が甚だ速かで世界の視聽をあつめ、北部アジアにも多く居住してゐる。露國がその代表である。

右の外、ヨーロッパ人種に屬するギリシヤ、アルバニヤ、ケルト、レット（リガ灣附近に住む）、リトワニヤの諸族はもと優勢であつた民族の子孫で、邊境部に住んでゐる。

其の他ユダヤ人はキリスト敎徒から迫害、輕侮を蒙るが、商業、貨殖に長じ、概ね都市に住んでゐる。又アジア人種はアジア又は歐亞の境から移住したもので、主なるものはマジヤール、フイン、トルコの三族を擧げ得る。概ね島狀に分布し、マジヤール族、フイン族は著しく白人と混じてゐる。又ラップ人もある。

面積より云へば、廣袤實に世界陸地の十五分の一であるが、人口はその四分の一である。密度の大きな地方は主として中歐、西歐の商工業地帶及びイタリヤを第一とし、是より遠ざかりて、北歐、東歐及び南歐の

イベリヤ、バルカン兩半島の農牧地帶は小である。人口は十九世紀中に著しく增加し、海外移住者七千餘萬を出してゐるに拘らず、百年間に二倍以上となつた。最近の世界大戰には三千五百萬を失ひ、その後ラテンチユートン兩民族は殆んど增加しないため、人口の重心は漸次東方に移り、政治勢力もこれに伴ふ傾向がある。海外移住者も最初チユウートン族が多く、次いでラテン族が多かつたが、今日はスラヴ族が多い。

b 國家の分布

國家の分布は密で、全部が獨立國に分れてゐる。元は概ね君主國であつたが、世界大戰後は共和國の數が多くなつた。大戰前は英、獨、露、佛、伊、塊洪の六箇國が最も强大であつたが、大戰の結果國土の分合が行はれた。大戰末期に獨立を宣言した小民族は、他にも多くあつたが、多くは泡沫的に消滅し、結局獨立國として殘つたのは歐洲內では七つである。卽ち、(1) ポーランド(第十八世紀末に全滅したこの國は一二五年目に滅亡當時の地域內に再興した)、(2) チエツコ、スロヴアキヤ(戰後のオーストリヤ領の北部ボヘミヤ、モラヴイヤ地方と舊ハンガリヤの西北部とを併せたスラヴ種族の國家)、(3) ユーゴー、スラヴイヤ(バルカンのセルビヤ國にモンテネグロと舊オーストリヤの南部等を加へた南スラヴ種の國)、それと舊ロシヤ帝國領の西北部バルト海沿岸の、(4) フインランド、(5) エストニヤ、(6) ラトヴイヤ、(7) リトワニヤである。尙獨塊に與みしたトルコ領內の異民族も大戰を機として續々獨立を企て、結局シリヤはフランス、パレスタイン、トランスヨルダニヤは英國の委任統治に歸し、メソポタミヤには英國保護の下にイラク王國が興つたので、トルコは歐洲にはイスタンブール附近猫額大の地を保つのみで、トルコ領は先づ小アジアだけと云つてよい位になつた。更にまたエヂプトは一九二〇年英國より獨立することゝなつた。

かく塊洪國の分裂、ロシヤの後退で現在は三十餘の大小國(二十七國と六つの侏儒國)となり、世界の列强と云はれるものは勿論此の歐洲の中にある。

前述の如く、一時に多數の獨立國が出來たことは、歷史上空前のことであるが、それは嘗に民族自決主義の力のみではなく、フランスがドイツの背後に相當な力をもつ國々を建てゝ、背後からドイツを牽制させてその復讐に備へるといふ政略も多分に働いてゐることは云ふ迄もない。

又歐洲の東部は地形、民族及び歷史のかくの如き關係から複雜に分れてゐる、スラヴ族のロシヤは面積人口の大と、特殊の政治組織とが東歐に雄視してゐる。又西に英(チユートン)、佛(ラテン)、中央に獨(チユートン)、伊(ラテン)があり、その間にオヲンダ、ベルギー、スイスの緩衝國、ドイツとロシヤとの間に緩衝國としてポーランドがある。此のポーランドやさてはバルト海沿岸諸國、フインランドなどは多くはソヴイエート政治の西進を阻止する障壁をなしてゐる。

南歐ではイタリヤが獨り優勢で、バルカン半島には小國が分立し、常に不安が絶えない。アジア人種の建設する國家はホンガリヤ、フインランド、エストニヤ三國で、トルコはこの大陸の一部に領土を有するのみ

となつた。

大戰後は民族自決主義により、多くの小獨立國が認められたが、バルト海沿岸諸國の如き國力の弱小なものも少くない。然しトルコの領土以外には、他の大陸の國家の植民地は一もなく、大小の國家が國際競爭裡に群り立つの偉觀を呈する。特にスカンヂナヴイヤ、イベリヤ、バルカン等の邊境諸國は、大抵露、英、獨佛、伊の五大强國の何れかと親善又は同盟關係を有して獨立を保つてゐる。是等の諸國に於いては現狀の維持派及び打開派の對立が著しく、今後の動向は注目に値する。ソ聯を除いては面積、人口は共に我が帝國より小さいが、海外に廣大な植民地を有する國が多く、殊に、英、佛、蘭の三國は著しい植民國である。

二、歐洲平和の本質

a 民族主義（ナショナリズム）

事實現代の指導的政治思想たる民族主義は既に前代に於いて可なりに發展したのであつた。その端緒は既に古く八四三年のヴエルダン條約によりフランクを分割したことに發してゐるといはれる。

十九世紀に於ける指導理論の一たる浪漫主義（ロマンチシズム）が、國民民族を愛重するところから、該世紀の一大思想たる民族主義の構成に大いなる影響があつた。

英國の史家ハーンショー Hearnshaw は其の名著十九世紀歐洲政治史概論中に於いてラムゼー・ミユヤー Ramsay Muir やトインビー Toynbee 等の諸學者の說を彼此參酌して次の如き定則を下し、「凡そ民族性なるものは、過去の傳說、現在の利益及び將來の希望を共有し、以て統一的組織體たる意識と、他民族と區別さるべき意識とを與へらるべき民人の特性、特質が卽ち是れである。」と論じてゐる。

此の際吾人は今民族主義の意味を確立しようとはしない。こゝに同一民族にして、孤立分散して未だ統一國家を成すに至らなかつたものを統合し、以て完全な統一的民族國家を造らんとする運動と、又既成の國家を分解して如上諸要素を共有せる眞の民族的國家を造らうとする運動とがある。これ民族主義運動である。

世界大戰は一九一四年（大正三）六月二十八日、イタリヤ半島の東方、デナルアルプ山脈中の礦業都サラエヴオに於ける慘劇によつて點火された。その參加國數よりせば、三十二國、兵數約六千八百萬、兵の損耗約三千三百萬、戰費三千餘億圓を費し、約四年半に亘り力を競ひ、一九一八年（大正七）十一月十一日ドイツの休戰により漸く平和の曙光を見ることゝなつた。かくて翌年出來上つた平和條約によつて、世界は大變動を見、米國大統領ウイルソンの非併合、非賠償の主張は容れられず、フランスのクレマンソー等の峻酷な要求に決定し、更に國際聯盟が成立することゝなつた。

b 國際聯盟と英佛

大戰のさ中、英、米などに平和を確保し、戰爭を防止するために國際的の制度を設ける運動が起り、その運動は引つゞき諸國にも現はれ、夫々の政府もこれに注意を拂ふに至つた。されば大戰後平和の欲求を增進し、世界平和の維持を目的とせる國際聯盟の組織が、一九一九年（大正八）一月パリーに豫備講和會議が開かれるや、ウイルソンの提唱と、列國政治家の贊同から特別の委員會が設けられて決定を見、講和條約に加へられ、四月に確定するを得た。後に參加國數五十七となり、殆んど世界の大半を包括した。本部をスイスのジユネーヴに置き、國際間の紛議は聯盟理事會及び仲裁裁判の審査に附し、必要あれば經濟封鎖の制裁を行ふことが規定され、一九一九年、北バルト海に於けるオーランド諸島 Aland Is. 關係のフィンランド、スエーデン兩國間の紛議、一九二一年（大正一〇）の上シレジヤ關係の獨、波兩國間の紛議等、何れも聯盟の努力により充分平和の解決が出來た。かくの如く、大戰後世界平和の維持機關として活動した國際聯盟も、世界情勢の變化に伴ひ、多大の打擊を受けねばならなかつた。卽ち列强中一二の有力分子の利害を基調として計劃された聯盟の方針が、十數年を經て動搖を感ずるのは當然のことであらう。

國際聯盟の有してゐる意味は色々あるであらうが、其の實、各民族國家間の利權增進の目的に出づることは爭ふべからざる事實であり、換言すれば民族主義の積極的活動の現はれとも見ることが出來よう。實際のところ、世界大戰は英國にとつて軍事上、經濟上、恐るべき强敵を斃さうとする戰爭であり、フランスにとつては約五十年前の獨佛戰役の慘敗の恥辱を雪ぎ、やがてアルサス、ローレンの兩州を恢復しようとする戰

爭であつた。

戰爭にしてかくの如き意味をもつてゐるから、大戰に勝利を得た英、佛などの聯合側の大國が何れも打揃つて一九一九年（大正八）のヴエルサイユ平和條約を以てドイツを拘束したのであつて、特にフランスはドイツの復興を抑へて自國の安全保障を圖つたのである。併しドイツと單獨講和したロシヤは其の赤化運動のために久しく列國の承認を得ず、東方に孤立したが、是等の各國のその後の情勢が變化發展したことに對しては聯盟の方針が不變であるために、結局各國家の生存についての問題は、聯盟でも決定的な解決を下す實力がなくなつて來た。其の變化の第一なるものは一九三一年（昭和六）の滿洲事變であつた。東洋に於ける帝國の地位とその正當なる主張とに對して正しい認識を缺いた聯盟は、徒らに理論の世界に逍遙して國際政局の實際を洞察するの識見なく、一九三三年（昭和八）二月に亘り、聯盟は屢々理事會及び總會を開いて、此の滿洲事變に於ける日支間の葛藤の解決に努めたが成功せず、唯多數を以て帝國の主張を否認したので、帝國は聯盟から離脫する旨を宣言し（一九三三年二月二十四日）一九三五年（昭和一〇）三月に至つて全く脫退することゝなつた。

以上の帝國の一擧はいたく聯盟の權威を失墜せしめた觀があり、特に歐洲以外の大事には殆んど無能なることを示すに至つたが、是より先、一九二八年（昭和三）以來南米のグランチヤコ地方に關するボリヴイヤ、パラグアイ兩國間に起つた紛爭問題も、聯盟としては有力なる解決を下すことが出來ず、一九三四年（昭和九）以

來形勢は惡化して遂に翌年二月パラグアイの聯盟脫退を見るに至つた。

今少しく此の事情を說明せんに、パラグウイとボリヴイヤとは共にブラジルの南にある南米の內陸國である。其の中、パラグアイはパラグアイ河及びパラナ河を利用して大西洋に出る便をもつが、ボリヴイヤにはそれがない。故にボリヴイヤはアンデス山脈を越える太平洋への出口を求め、タクナ、アリカ Tacna. Arica 地方を得んとし、この地方が、ペルー、ボリヴイヤ、チリー三國間の係爭地となつたが、結局、一八八三年（明治一六）の條約で、十年間チリーが是を保有した後、人民投票で歸屬を決する事になつた。然るにチリーは永久に之を保持せんとし、所謂、「タクナ・アリカ問題」が續いたが、結局一九二九年（昭和四）米國の調停でタクナはペルーに、アリカはチリーに歸して、ボリヴイヤは遂に太平洋への出口を失つたので、轉じてグランチヤコ地方を取り大西洋への通路を得んとした。然るに此の地はパラグアイが嘗てブラジル、アルジエンチンとの戰に敗れ、大いに領土を失つた後、其の生命線として死守する處である。さればパラグアイ、ボリヴイヤ兩國は一九三二年（昭和七）遂に開戰し、爾來パラグアイは佛國に、ボリヴイヤはドイツに賴つて相戰ふこと三年に及んだ。國際聯盟は兩國の戰爭にも干涉し、ボリヴイヤは其の勸告を容れたが、パラグアイは是を一蹴し、遂には國際聯盟を脫退した。其の後一九三六年（昭和一一）六月に至つて、周圍の諸國及び米國の調停で兩國は始めてヴエノスアイレスの休戰條約を結んだ。

聯盟の脅威となつたものは是のみではない。かの一九二五年（大正一四）以來聯盟に加入してゐたドイツが、軍

備均等の主張が認められなかつた結果、一九三三年（昭和八）九月脫退を決行したことがそれで、こゝに聯盟は既に眞の國際聯盟たるの意義を失つたのであつた。なほ又加盟國中には規定の納附金さへ支拂はぬ國が少くなく、英、佛を主とする歐洲聯盟たるに過ぎないものとなり、實力は甚しく減殺された。而も更にイタリヤが、エチオピヤ問題に關して聯盟と對立せんとしたため、屢々脫退、無親の態度を示し、一層聯盟の前途を悲觀せしめ、恰も現狀維持機關とはなつたが、實に村川博士が一八一五年（文化一二）成つた神聖同盟と比較研究せられた如く、その理想や起源は大きなものであつたが、次第に崩壞に向ひ、龍頭蛇尾に終らんとしつゝある。

露國はかゝる間に、一九二四年（大正一三）、英國にマクドナルドの勞働黨內閣が成立してロシヤを承認してから、他の諸國も續々是に倣つて國交を回復し、終には聯盟に加入した。

其の後イタリヤは防共協定に參加し、國際聯盟の原則を無視して滿洲國を承認し、一九三七年（昭和一二）十二月十一日終に脫退を敢行した。かくして聯盟の威信は益々地を拂ふ一方であるが、翌本年に入つてからはお膝下のスイスが聯盟返上論を示唆しさらにオスロ協商諸國がイタリヤのエチオピヤ併合承認の動きを示し、歐洲諸國は漸く制裁規定を根幹とする國際聯盟の集團的安全保障主義から離背する傾向にあり、英佛兩國は右事態に對處するため聯盟規約制裁條項の廢棄を考慮したが各國とも本年一月の理事會では是を尙早としたそして終に今年の秋に持越されることゝなつた。

併し昨年起つた支那事變に關する對日決議案は同理事會に於いて二月二日採擇された。是は昨年十月六日の總會の決議を蒸し返したやうなもので、「聯盟よ！、支那を援助してやれ」と漠然と叫ぶのみである。此の時、ポーランド、ペルー兩理事國は棄權し、大國の横車に對する小國の反抗は漸く顯著となり、總會はもとより理事會に於いてすら足並の揃はぬことを曝露して來た。

特に英國の聯盟に活動した英外相イーデン氏の理想主義外交はスペインの革命起きるやチエンバレン首相の現實主義外交と衝突し、終に本年二月二十日辭職したので英國の聯盟中心主義は棄てられて、獨伊へ接近し、佛國はそのため英國と從來協調してゐた外交政策を繼續維持せん爲には、大戰後二十年來の外交基調なる聯盟を捨てゝチエッコスロヴアキヤ及び露國との兩同盟を犧牲にせねばならなくなり、若しさうすればチエッコスロヴアキヤ等小協商國に對する佛國、聯盟の威信は墜ち、却つて是を獨伊樞軸に結び附ける結果にもなる恐れが多分にあるため、矢張り聯盟中心主義を固守してゐる。

併し英伊間には愈々本年二月二十五日より會談が行はれ、又是と並行して英獨會談が行はれた。そのうち英伊會談では、三月十八日英國はイタリヤのために聯盟が同國のエチオピヤ併合を承認する樣取計らひ、又イスパニヤ内亂に關して暗雲の漾へる地域の地中海艦隊の一部を撤收することゝなつた。佛國は英國と協調する必要上、同國を仲介として二月末佛伊會談をはじめ、四月十六日より正式會議に入つたが未だ成案を得るに至らない。

此の間に小協商國の一、ルーマニヤはイタリヤのエチオピヤ併合を三月八日承認し、又同じ頃起つた獨墺合併に對して、英佛は共にドイツに對し三月十一日强硬抗議を申込んだがドイツは何等相手にせず、此の事に關して共同對策を構せんためイタリヤに交涉しては拒絶せられ（同日）、兩國は大いに國威を損した。なほ本年五月十二日聯盟理事會では、イタリヤのエチオピヤ併合承認は各締盟國の自由に任せらるゝことゝなり、唯聯盟は頼みになり難き佛國のみを中心とする無力のものならんとし、その現狀維持の使命は實質上消失せんとしてゐる。

三、現狀維持的國家の動向

a 世界經濟會議の不成功

世界大戰前より漸次興隆の氣運に向ひつゝあつた世界の國際經濟は、大戰のために全然攪亂された。ために各國は大戰當時の變動狀態に適應して生活資料を得べく、大體自給自足の途を求めた。依つて戰前工業製品の供給を、主に歐米に依存した國に於いて工業が勃興し、或は大戰中工業原料輸入の方途の杜絶した國では、新に自國に於いてその代用品を求めた。かくして世界諸國では夫々產業形態が變動し、或は大戰中生產率が著しく增進した國もあつたが、さて平和恢復となつて見ると、戰時工業は元の平時工業に復したが、そ

の生産品の販路は戰前の如くならず、こゝに世界的生産過剰を見るに至つた。さればドイツの賠償金が一九三二年（昭和七）のローザンヌ會議にて三十億金マルクとなつても、經濟不況は矢張り世界的現象となり、各國ともに其の解決に苦しんでゐる。殊に歐洲諸國が不況のために戰時中負つた對米戰債の解決に惱み、米國はその債權棒引を承諾しないので、此の難問解決による世界經濟界の不況打開は望まれなくなり、米國にさへ不景氣を增大せしめ、其等の經濟的不況の結果、各國間の爲替關係や輸出入關係を紊亂せしめ、各國互に關稅政策を勵行して、所謂數箇の經濟ブロックの成立となり、經濟上よりも國際關係の不安を增大せしめつゝある。よつて英米兩國間の首腦者の豫備的打合せの後一九三三年（昭和八）六月世界經濟會議はロンドンに開かれ、六十七箇國が參列し、帝國もこれに參加したが、米國は依然として列國の要求にかゝる戰債の帳消しに應じないので遂に流會に終つて了ひ、米國はニラ政策N.I.R.A.による自國の產業の振興や、經濟上の利害のために國際的協調を破つて顧みない。要するに列國各自の深い利害關係は容易に世界的な自由貿易主義に共鳴せしめることが出來ない。

かくて列國は自利本位の殼の中に立籠つて協調的精神を示さず、世界の景氣恢復は列國の互讓を俟たなければ解決出來ない。殊に爲替低落國たる帝國の如きは、近年の著しい國內產業の發達と、爲替低落とのため帝國商品の海外進出は頗る活潑となり、到る處に外國品を驅逐する結果となつた。これに對して帝國商品に對する輸入防遏を企てつゝある國も少くない。その最も著しいものは英國である。

b　英國の自由貿易政策の廢棄

過去一百年間世界貿易の覇者として、列國經濟の指導的地位を占めてゐたイギリスも、戰後米國が債務國から一躍債權國になつたに反して、大戰による大疲弊によつて、勞働黨や社會運動が盛となり、一九二四年（大正一三）にはマクドナルドの勞働黨內閣が出現し、更に一九三一年（昭和六）には擧國一致の意味で同黨と保守黨との聯立內閣が出來たが、矢張り經濟的、社會的不安は去らず、英國の凾に經濟的地位のみならず、世界的地位は全くアメリカに奪はれようとする形勢を示し、且つ他の列強の躍進によつて、遂に約百年間の傳統的政策であつた自由貿易主義はその維持困難となり、自治植民地も亦本國に對して從順を缺くに至つた。

由來英國はアメリカ合衆國の獨立に苦い經驗を嘗めてから、植民地には自治を許して來たが、その結果、本國と植民地との關係が次第に緩んで來て植民地分離の恐れが現はれ、特に大戰後は著しくなつた。恰度十九世紀の中頃以後、各國は世界政策に邁進し、帝國も自治植民地を本國と緊密に結合して、帝國主義的活動をなしたから、英國も自治植民地を本國求を採り上げて保護貿易論を唱へ、一種の關稅同盟を基礎とした大英帝國主義を唱導し、一八八七年（明治二〇）から植民地首相が會合する植民地會議を開催した。是以後彼の說より英國の經濟政策上保護、自由兩主義の二大潮流が對立することになり、又此の會合は後に帝國會議と改められ、數年毎に開催されることになつた

茲にいふ大英帝國主義の特徴は、所謂自由放任主義の國策を棄てゝ、母國の軍備に依つて子國を守備し、子國のより多き負擔により母國の軍備を强大にし、また保護貿易をとり、母子國間に互惠條約を結び、殊に食料品につき母國は子國の關稅を免れた安價な生產材料を使用し、子國は母國の關稅を免れた安價な加工品を使用して、軍事上、經濟上の連繫を圖ると俱に、外交上には協力して行動するにある。

此の自治植民地とは、カナダ、オーストラリヤ、ニュージーランド、南アフリカ聯邦、ニューファウンドランド等を指すのである。この帝國會議は後に歐洲大戰中英本國に利用されて、戰爭中は自治領は本國に忠誠をつくし、戰後にも本國の外交軍事に連關するやうになつてゐるが、一九二六年（大正一五）の帝國會議によつて、本國と自治領とは對內對外問題には一方が他方に從屬的關係にあるのではなく、全く對等の地位に置かれ、而も等しく皇帝に忠誠を誓ひ、帝國の一員として協同するに決した。されば英帝國は一箇の聯邦と化すことゝなつた。

そのうち一九三二年（七昭和）七月―八月カナダの首府オッタワに開かれた英帝國經濟會議は大英帝國の全自治領にわたり、互惠條約を結び、外國に對しては一種の經濟ブロックを出現せしめようとするにある。これは特惠關稅を主張し、從來國策たる自由貿易主義を帝國外の諸國に對して保護貿易主義を行はうとする保守黨が、一九三一年（六昭和）十月の改選に大勝したために、具體化して來たものだつたが、英本國の不況、引いてはポンド本位國の不況の克服を目的としてゐる。

かくて英本國とその自治領內の關稅は取除かれ、又は引き下げられて障壁は取除かれ、外國への障壁は却つて高まる傾向となつた。こゝに世界的傾向たる經濟的鎖國主義に協調して、英帝國內のブロック經濟は緊密になつた譯である。是が直ちに影響して帝國は最もその政策の犧牲となり、綿布綿織物その他の商品は禁止的高稅を以て脅かされてゐる。最近の日印通商會議などもその結果のあらはれの一である。

卽ち印度政府は一九三三年（八昭和）四月、日印通商條約を破棄し、更に同年六月英本國及び印度の綿業者擁護のため、綿布に對して重稅を課した。これによつて最も打擊を被るべき我帝國は抗議を試み、兩國代表者は一九三三年（八昭和）九月より印度のシムラに會して屢々交涉を重ね、幾多の難關を經て翌年一月辛うじて協定の成立を見るに至つた。但、これには帝國側の少からぬ讓步に負ふ所が多いのである。又オーストラリヤもカナダも、みな帝國商品の防遏に努め、帝國との間に屢々會商が行はれ、遂にオーストラリヤとは協定進捗したるも、カナダとは決裂に終つた。次いで蘭領印度も亦帝國商品防遏を試み、ために一九三四年（九昭和）六月以來ジャヴアのバタヴイヤで日蘭會商が開かれ、帝國輸出業者のために、轉出入品の數量制限に關し頻々交涉を重ねたが、遂に一九三四年（九昭和）十二月不調に終つて了つた。併しかくの如き各國の防遏手段にも拘らず、帝國商品は安價なため外國商品を裝うて益々各國市場に侵入する有樣で、帝國の世界的發展の一面を語りつゝあるのである。かくて一九三七年（一二昭和）日印、日緬通商協定は成立したが、帝國は日英協定を提議して兩國の政治經濟の調整を圖らんとしたけれど、支那事變發生のため中止となつた。

c アイルランド問題

アイルランドはアイラ人 Inis の地の義である。此の問題は英國の癌である。此の地は我が九州の略ぼ二倍の面積を有し、大英帝國の一部を構成してゐる。そして南アイルランドは其の面積全島の約四分の三を占め、人口は二百九十萬以上に達し、その大部は舊敎を奉するケルト種（又はその混血種）のアイルランド人であつて、農牧業を以て主要なる生業とし生活程度も低い。

之に反して北部のアルスター地方は、其の面積全島の約四分の一を占め、人口は百六十萬以上を算し、何れもスコツトランドより移住したチユートン系の新敎徒であつて、商工業に從事するもの多く、生計は一般に富裕でアイルランド人はその下にあつて勞働に從事してゐる。

元來アイルランドの原住民たるアイリツシュは被征服民たりしため、常に屈從の地位に立たせられ、從來のチユートン種が主として地主、官吏となつて在來の住民を壓迫し、苛酷の小作料や稅金を徵收し、爲にアイリツシュの窮乏は具に加はり、其の上連年の凶荒に惱まされて飢餓に困しみ、窮民踵を接してアメリカ地方に移住し、十九世紀の前半に於いて約八百萬以上を算した同島の住民も二十世紀の初頭には僅々四百萬以上を算する過ぎぬやうになつた。

されば長い間英國の加へる迫害に苦んで來たアイリツシュもアメリカが獨立した頃より、その不滿を組織

化して秘密結社を作り英國の統治に反抗するの氣勢を高めた。かくて平和的に地主より土地を回收し、英國王室の下に自治政府を建設せんとする穩健派と暴力により國家的獨立を望みし革命派とが生じた。かの英國ヴイクトリア女皇時代、政界の雄グラッドストンの自由黨內閣出現するに及び、一八八六年（明治一九）第一回自治法案を提出し、アイルランドには特別に其の議會と責任內閣とを造らせ、唯王位、外交、軍事等に就いてのみ本國議會の決議に依らしめんとした。此の法案は勿論否決せられ、彼の自由黨すらも分裂した。其の後も此の種の法案が現はれたが、アルスターでは若し自治案が布かれたなら、彼等は南方アイリツシュの多數から復讐される惧れがあり、更にアルスターは工業地であるに拘らず、南方アイリツシュの農業的利害の爲に大なる損傷を蒙る憂がある。故に該自治案から除外を求むるに至つた。とは云へ、南方アイルランドは南工業の殷盛なアルスターを除外して自治案を達成せしむるを好むべき理由がない。

かゝる間に該法案は二度（一八九三年明治二六、一九一二年明治四五）下院を通過し、二回上院で否決された。されば今一度下院を通過しさへすれば上院で如何なる反對に出會ふとも直ちに法律として公布さるべきであつた。

時偶々世界大戰が勃發し、英國の民衆上下一致して國難に赴かんとし、政府は巧に斯かる時運を利用し、如上の自治法案をして、一九一四年（大正三）五月三度目下院を通過させて之を完全なる法律とした。乃ちアルスター州は兵器を購入し、兵士の敎練を開始し、一方アイルランド愛國者も是に對抗して義勇軍を組織し、

遂にダブリンに於いて軍隊と群集とは流血の慘を起し事態益々切迫した。英國は對外的協力一致を必要としたので、戰爭中其の實施を見合はすことになつた。

此の時南方アイリッシュは彼等の首唱せる民族主義の見地より、直ぐ様該法律の實施を望んで止まなかつたが、北方アルスター州との融和の出來ぬ以上是れが實施を要望することは全然不利益なこと丶言はなければならぬ。

やがて戰爭の第三年一九一六年（大正五）四月アイルランドに徵兵制度を餘儀なく施行せんとしたことより、ロージャーケースメントを中心とするアイルランド獨立黨の一派は獨立を宣言し、密にドイツと通じて不軌を圖り、同黨の傑物、ジエームス、コーンリーなるもの亦た決然兵をダブリン市に擧げ、白、綠、黃の三色旗を飜して、共和獨立の宣言をなすに至つたが、時利あらず遂に中道に挫折するの止むなきに至つた。

此の間、アイルランド民族主義を標榜せるシン、フエーン黨（Sinn Fein—Only Ourselves ノ意）の一派はこれが失敗にも屈せず、一九一九年（大正八）民族自決の氣運の隆んならんとするに乘じてダブリンに立憲議會を創立し、アイルランド獨立共和國の建設を宣布し、同黨の有力なる鬪士デヴアレラを推して大統領に選び英國と國交斷絶を宣し、銳意その目的とせる獨立共和國の建設に向つて進んだ。

一九二〇年（大正九）ロイド、ジョージ內閣は此の假政府と休戰條約を結び、曩の自治法を改正し、十一月上下院を通過した。此の法律はアルスター地方には歡迎せられたが、アイルランド側は同島を南北に分割し、

財政上の自治を與へざることに對して不滿の意を表明した。デ・ヴアレラは民心を煽動し、本國各地で過激な直接行動を取らせたが、國民は是に倦みて、溫和派勝ち、かくてシン・フエーン黨と英政府との交涉の結果、一九二一年（大正一〇）十二月六日の英愛條約となり、翌一九二二年十二月遂にアイルランド自由國令の公布を見るに至つた。卽①北アイルランドと、②アイルランド（アーニオン）自由國令の二部に分れ、①は依然英國の一部として英國議會に議員を出し、②はカナダと同格の自治領（ドミニオン）となつた。それで自由國と英國との聯繫は、英國王の任命する總督と、自由國大統領、大臣の王に對する忠誠の誓等に限られる。

大統領デ・ヴアレラは此の決定に不滿で職を辭し、此の交涉の代表者アーサー・グリフイスが代りて大統領（自由國政府の內閣議長）となり、ミカエル・コリンスが首相（自由國內閣副議長）となつた。

デ・ヴアレラは其の持說たる絕對獨立共和國建設を高唱し、意外の反響を惹起し、特に偶々グリフイス大統領は心臟を病みて歿し、首相コリンス亦た過激派の毒刃に斃るゝに至りてより更に國內婦人團の熱誠なる後援を獲得し、自由國の前途未だ俄に樂觀を許さゞる狀態にあつた。

越えて二二年（大正一一）コスグレーヴ立つて大統領となり、デ・ヴアレラの過激派を一掃して一時國內の平靜を恢復するに至つたが、一九三二年（昭和七）內政問題に就いて總選擧に敗れて失脚し、先きに議會に復歸せるデ・ヴアレラ立つて三月大統領兼地方政、保健大臣となり、斷然自由國を牛耳つて約を破つて英王に對する忠順の誓を拒否するに至り、著しく英國の反感を挑發するに至つた。かくて一九三七年（昭和一二）七月アイルラ

ンド自由國新憲法が成立した。この新憲法はアイルランドを事實上完全な獨立國として規定したものであり而もアルスター州六縣を領土として含む者と解されてをり、その間の問題をはじめ、國防、通商等廣範圍に亙つて英本國と折衝を行ふ必要が生じ、本年一月十九日より英首相官邸に於いて最終會議を開いたが、その問題の一部が解決されたのみである。

かくて五月四日に至り新憲法に基く初代大統領に著述家ダグラス・ハイデ氏が、デ・ヴアレラ首相のフイアナ・フオール黨、ウイリヤム・コスグレーヴ氏の統一アイルランド黨との間に妥協成立し、無競爭で當選した。六月上旬には就任した筈である。

アイルランドの面積は自由國の方が全島の七分の六弱を占めてゐるが、人口は北アイルランドが密で約三分の一を占める。自由國政府の目下の大問題は、米國への移民が事實上停止された今日、增殖する人口を如何にするかである。又英國との反目のためアイルランド農産物が英國の市場を失つたことも自由國の惱みである。デ・ヴアレラはアイルランドを自給自足の經濟單位とすべく、是がために中部及び南部の大農場及び大牧場を細分して農民に與へんと企て、アイレ國の名に改めんとしてゐる。

d　軍備縮小會議の失敗

その昔、一八九九年（明治三二）露帝の提唱により第一回軍縮會議が開かれたことがあるが、その後大戰の慘禍に懲りて、一時列國間に平和的精神が起り、一九二一年（大正一〇）十一月十一日米國大統領ハーヂングの主催にかゝり、翌年に亙り日、英、米、佛、伊に支那を加へてワシントンに軍備制限會議を開き、その結果、日英米三國主力艦、航空母艦の噸數を三、五、五の比率を定めることに漸く成功し、更に日英米佛の四國協約を結んで太平洋の平和を約し、日英同盟を廢棄した。又以上四國に伊、白、蘭、葡、支の五國を加へて九ケ國條約を結び、支那の領土保全等について決定した。更に一九二七年（昭和二）補助艦につき第二回軍備制限會議がジュネーヴに開かれたが、失敗に終つたので、米國がフランスと協定して不條約締結を提議し、日英伊獨等列國の贊助を得、翌年八月同條約がパリーで調印を了されて、能ふ限り戰爭を中止することゝなつた。やがて一九三〇年（昭和五）一月二十一日米大統領フーヴアーと英首相マクドナルドの協議により、補助艦につき日英米佛伊五國のロンドン會議が開かれ、海軍の縮小を議し、四月二十二日日英米三國の巡洋艦、その他補助艦艇の比率を七、一〇、一〇と定めた。

此の軍縮、不戰等の條約はいづれも他國を犧牲にして自國の有利を圖るものであり、又戰後の重荷は年と共に加はり、殊に最近の經濟上の逼迫はいづれの國をも著しく國粹的排外的ならしめ國際協調の精神は失はれた。

元來軍縮會議は戰後の世界に米國が投じた貴重の一石であつた。これによつて米國は一時世界の指導者たる如き地位に立つたが、其の結果はかくの如き國際不安を醸成するの一因となつた。

更に一九三二年（昭和七）二月二日より、スイスのジュネーヴに於いて、聯盟規約第八條により各國の一般軍縮會議が開かれたが、軍備の具體的問題に至つては何等の成案を得ず、遂に永久休會となつて了つた。又海軍々縮會議も、第一回ワシントン會議（一九二二年、大正一一）、第三回ロンドン會議（一九三〇年、昭和五）の決議ももはや最近の世界情勢に適せず、帝國はその國際的境遇に適應せざる海軍比率の改訂を痛感し、不侵略、不脅威の二大原則に基く軍縮方針を堅持し、前條約の滿期について更に新に開かるべき軍縮會議の準備會談は既に一九三四年（昭和九）行はれたが、日英米三國間の新協定は實現し易からぬ形勢であつた。

かくて一九三五年（昭和一〇）末より日英米佛伊の代表委員はロンドンに會して新軍縮方針につき討議を行つたその時偶々英國には總選擧があり、その結果保守黨政府は存續し、その海軍擴張方針は漸次顯著となり、又米國の大海軍政策と正に對抗の形勢を示したので、遂に帝國の比率撤廢の主張が容れられず、比率規定の兩條約を廢棄し、一九三六年（昭和一一）末、無條約時代に入つた。最も英米兩國が世界に優越するといふ意識から尊大に行動し、互讓の精神を缺いだ結果に他ならぬ。

翌一九三七年（昭和一二）及び今年にかけても各國とも大軍擴に邁進してゐる。特に本年二月五日英米は單なる帝國の建艦風說に關し內容を照會した失禮なる重大申入れをなし、夫々自國の軍擴の口實を得たのであつた。

e 佛　國

フランスは英國と共に西歐の二大デモクラシー國をもつて任ずる國で、第三フランス共和國八十年の政治的生涯は實に一起一伏の限りをつくして來た。大戰には約百六十萬の壯丁と莫大の損害を受けたが、一九一九年（大正八）のヴェルサイユ條約の結果、ドイツよりアルサス、ローレンを奪回して佛國の重工業は俄に勃興し、更にシリヤの委任統治權、十五ヶ年間ザール流域の炭坑所有、採掘權を得たほか、一九三〇年（昭和五）ベルギーのスパー會議でドイツ賠償金の五二%を受取る權利を獲得したが、而も同國の損失を充さず、又他面にドイツの復仇を恐れ、その國民的再起を不可能ならしめんとしてゐる。既に一九二〇年（大正九）以來、ルーマニヤ、チエコ・スロヴアキヤ、ユーゴースラヴイヤ三國間を斡旋して、所謂「小協商」を成立せしめて獨墺の同盟側の復活に備へ、一九二〇年（大正九）に佛白軍事協定卽ち對獨防禦同盟を結び、また露、獨接近防止のために、偶々民族主義を主張して建國せんとするのを佛國が支援したボーランドが、一九二〇年（大正九）ソヴィエート聯邦と開戰するや、積極的に助けられぬ事情があつたので應援のため將校を送つた。又ドイツの賠償金問題には常に强硬なる態度を取り、更に一九二五年（大正一四）ロカルノ會議に參加し、ドイツの國際聯盟加入を許容した。當時國內に世界大戰中及びその後のインフレーション、放漫財政、モロッコ出征費、ルール地方の軍事的占領費等により、フラン價は空前の大暴落を來し、一般社會を異常な不安混亂に陷れたが、

是を匡濟せんため度々内閣の更迭を見るに至つた。大統領ヅーメルグ大いに心配し、遂に一九二六年（大正一五）ポアンカレーを起たして擧國一致内閣を組織せしめて、間接税による九十億フランの増税を斷行せしめ、財政整理を行ひフラン價安定に成功した。一九二八年（昭和三）の總選擧に於いて再び國民の信頼を得たポアンカレーは、同年六月二十五日新貨幣法の協賛を得、こゝに舊フランの約五分の一の新平價が決定され、爾後フランスは國人の勤儉と、ドーズ案の成立、ロカルノ條約の成立でドイツから得る多額の賠償金の流入、産業の復興によつて國富充實し、金保有量は米國についで世界の第二位に飛躍し、財政繁榮が實現し世界に於いて社會的に最も安定した國家と稱せられたが、一九三〇年（昭和五）後半期の世界的經濟恐慌、他國のダンピング競爭、一九三一年（昭和六）米大統領フーヴァー主張の賠償戰債支拂停止によつて大打撃を蒙つた。更に國際關係も南歐を中心として暗雲低迷の有様で、曩に一九二九年（昭和四）外相ブリヤンが國際聯盟に提案した「歐洲聯合」も成立を見るに至らず、又ドイツにはヴエルサイユ條約改訂、フランスとの軍備均等、賠償金不拂を主張するヒトラー派の擡頭により、佛國の神經を痛く刺戟し、一九三一年（昭和六）三月、獨墺の關税同盟成立に際しては獨墺合併の前提として反對し、不成立に終らしめた、併し一九三三年（昭和八）ヒトラーが宰相となり、古來地中海方面にて佛國と對立關係にあるイタリーと接近し始めたために歐洲の國際關係は急を告げるに至つた。乃ち英國首相マクドナルドは此の間を斡旋し、英、佛、伊、獨の「四國協定」を成立せしめ此の危機を救つた。併し窮極は其の目的を達することが出來なかつた。

一九三四年（昭和九）二月、パリーの公園コンコルド廣場の暴動事件―ペイヨンヌ事件―を一轉期として、此の大騒擾を惹起するに至つた事情、及び騒擾の跡始末をつけることの不可能なることは即ち議會政治の破産を示すものであつた。ルブラン大統領は萬策つきて、南佛に隠退してゐた元最初の新敎大統領ヅーメルグ氏の出馬を請ひ、漸く時局を收拾することが出來た。是はデモクラシーを誇る佛國に、政黨を超然する内閣が出現したのである。この間佛伊協定、佛英協定、佛露協定が成立し、歐洲平和機構實現の主旨を明かにした更に國内では一九三五年（昭和一〇）三月來の金フランの海外逃避と國内死藏とは盛んとなり、フランが動搖した此の異常な政局はヅーメルグの辭職の後二ヶ年以上續いて一九三六年（昭和一一）の總選擧を迎へたのであつた。

總選擧の結果、佛國は更に第二の異常狀態に入ることになつた。コンコルド騒擾より深い敎訓を得たヅーメルグは動搖を常とする議會制度をもつてしては、到底佛國の將來を安固ならしめることは出來ぬとして、是が改革を思ひ立つたのである。かくて急進社會黨及び社會黨は改革の赴くところ、遂に獨裁政治の出現を見るに至りはせぬかといふ不安、危惧の念に驅られたのである。偶々相當の勢力を持つてゐたファッショ（火十字團）がヅーメルグの改革案を歡迎した事實から彼等の危惧は全く無根とはいひ難いが、特に急進社會黨は獨裁政治の出現を恐れるの餘り、モスコーの指令を奉ずる共産黨と提携して民衆戰線なるものを組織し、「獨裁否定」を唯一の旗印として總選擧に臨んだのである。選擧の結果は民衆戰線派社會黨の大勝利となり、同年（一九三六年、昭和一一）六月の第一次ブルーム社會黨内閣が實現した。併し此の内閣は實業界を背景とせぬた

め、殊に此の內閣によつて實現された各種の社會法は、フランスをして殆んど經濟的に動きのとれない國にして了つた。かくてフラン價の動搖と勞働爭議とを繰り返し、その後の內閣は頻々交迭するが解決は未だにつかない。

外には佛國の後生大事と縋る英國は空漠たる理想論に拘泥するイーデン外相を閣外に逐つて保守黨本來の現實主義の政治に歸らうとし、英國の現實的部分のみに味方する國際聯盟や、集團保障主義を提げて獨伊に抗することは出來ず、大ゲルマン主義を目ざしてオーストリヤを併合し、チエコスロヴアキヤをも併さんとするドイツ、エチオピヤの領有を英國に認めさせんとするイタリに對し、更にスペイン內亂に乘じ、獨逸はフランコ軍を助け、フランコ軍は決定的の勝利を得てフランスは腹背より敵を受け同國委任統治のシリヤのサンジヤック地方をトルコは併合せんとする有樣になつても、唯見送る許りで强硬內政が不充分である。

四、國家社會主義と自由主義

a 獨佛の對抗

獨佛國境問題は一千年來の問題である。兩國の勢力の消長によつて、國境は或は東へ、或は西へ一進一退を反復して現代に及んだ。それは世界大戰の結果、佛國が得たアルサス、ローレン問題についてゞあつて、

獨佛關係は今後も尙ほ歐洲の危機の基となり得る。その解決困難の理由は、兩國の國境地方が地理的にも經濟的にも一體をなしてゐるのに、それが人爲的に數箇の國に分屬させられてゐることである。此の地方には何等の境界とすべき自然がない。而して地下には鐵と石炭とが接近して豐富に埋藏され、現代の基本的經濟事情から、當然單一地域をなしてゐる。其の交通線ともなるべき諸川も、或は獨佛、或は佛白、或は佛白蘭三國に跨つてゐる。かゝる自然と人爲との相違から、獨佛關係は自然に惡化する。されば兩國は唯武力的防備によつて、其の人爲的境界を保持しようと努力してゐるのである。

ヴエルサイユ條約ではドイツの賠償金を出す原則だけが決まつて、總額が定まらなかつたが、一九二一年（大正一〇）五月のロンドン會議で總額千三百二十億金マルクを課し、三十七ヶ年にて償還することになつた。併し翌年及び翌々年にはマルク紙幣の大暴落あり、ためにドイツは支拂不可能なことを主張し、容易にその責務を行はなかつた。フランスは英國と國內事情が異り、唯ドイツを抑へるに努力したし、又此の受入金を見越して獨軍侵入地帶の復舊事業に投資してゐたので强硬論を唱へ、その調整に度々開催された列國會議も決裂して終にベルギーと共に一九二三年（大正一二）一月十一日デユッセルドルフ駐劄の軍隊より枝隊を出し、ドイツ工業の中心地帶ールール地方、卽ちエッセン、ドルトムンドを占領した。此の地方は有名な鑛業地帶で、長さ六十哩、幅三十哩を算し、人口約四百萬を數へ、炭坑の數百七十五、一ヶ年の石炭產額は戰前で約一億二千萬噸內外に達した處である。その結果ドイツの產業は衰へ、財界は不振となつた。一九二一年（大正一〇）よ

り二四年（大正一三）に渉り、現金で送り出された額は既に二十億金「マルク」で、此の不換紙幣濫發の結果、紙幣一兆「マルク」が一金「マルク」に該當する様になり、物價の暴騰を促し、ドイツ中産階級に與へた損耗約五百億「マルク」に達するといふ經濟界未曾有の悲慘事を起し、佛國の財政もまた行詰つた。そこで列國はその救濟を圖り、一九二四年（大正一三）ロンドン會議で、賠償問題專門委員會米國委員の名に因むドーズ案を採用し、一九二四年より以後五ヶ年間にドイツの支拂ふべき年額を決定し、その後はドイツの經濟狀態に應じて、支拂年額を增させるやうに決し、ルールから撤兵を行つた。その後ドイツの經濟的回復が段々進み、一九二五年（大正一四）のスイスのロカルノ列國會議の條約で、西歐諸國間に安全保障が約されてから、翌年國際聯盟に加入し、歐洲の情勢も稍々安定した。ついで一九二九年（昭和四）には日英米佛伊白獨の專門家がパリーに集り、一箇の賠償專門委員會を組織し、該委員會の報告に基いて、更に列國政府委員會議をオランダのヘーグに開催し、遂に一九三〇年（昭和五）一月二十日賠償新案の決定調印を見るに至つた。この專門委員會報告が委員長米人オーエン・ヤングの巧妙な統率に成つたものであるから、これをヤング案といふ。それによれば今後ドイツの支拂ふべき賠償總額を三百五十八億千四百萬「マルク」と定め、これを一九二九年（昭和四）から五十八年七ヶ月間に完濟させることにし、ドイツの負擔が非常に輕められた。かくて一九二九年から一九三一年（昭和六）にかけ、ヤング案所定の年賦支拂約三十億金「マルク」の金がドイツから流出するに至つたが、產業不振の折柄、かゝる莫大の金の流出は到底長くドイツの堪ふる所ではなく

又ドイツの經濟的沈衰が一轉して歐米財界不況を胚胎するにも至つた。是に於いて一九三二年（昭和七）七月九日、スイスのローザンヌ經濟會議で、將來支拂ふべき賠償總額を三十億「マルク」と定め、ヤング案の支拂殘額三百二億餘「マルク」に比し、著大なる輕減を得ることゝなつた。

尤もこれは聯合國中の大債權國たる米國の大統領フーヴアーが、英佛を始め舊聯合國に對する戰債を、全然放棄、若くは是に近いまで輕減することを前提としたもので、米國としてはこれに應諾したわけではない。

是より先、一九一七年（大正六）米國の參戰を機として獨軍は總退却を開始し、國民は休戰を望み、翌年十月二十八日キール軍港の水兵の叛亂に端を發した大革命は直に全國に波及し、兵員補充の困難と相待ちて盛んとなり、十一月九日獨帝ウイリヤム二世は退位してオランダに蒙塵し、同時にドイツ諸君主も退位して共和政府が起り、社會民主黨のエーベルトが十一日第一回大統領となり、卽日休戰條約に調印し時局收拾に當つた。その歿後大戰當時の名將として遇ねく崇敬されてゐるヒンデンブルグ元帥が二五年（大正一四）二月大統領となり、人民黨の領袖ストレーゼマンを擧んで〻外相とし、國際協調主義を以て國家の難局に當り、賠償問題等も比較的順調に進んだのである。

併し國民的生活安定のためヴエルサイユ條約改訂の聲は國粹社會黨（ナチス）が勢力を得るに及び、益々

昂まつた。國粹社會黨、詳くは國家社會主義勞働黨 National socialist Party（略稱 Nazis）と云ふが、その黨首アドルフ・ヒトラーは賠償金の過重、重稅、失業者激增など國歩艱難なるを見て、國粹主義の旗印を掲げ外交上では屈辱的なヴエルサイユ條約の改訂、賠償金の支拂拒絶、軍備の平等などを叫び、內政上では共產黨撲滅、外來民族、特にユダヤ人排斥を唱へて國民の人氣に投じ、同黨の勢力は侮るべからざるものごなつた。

政治上、ストレーゼマン博士の協調主義は歐洲の國際關係の調整には役立つたが、一九三〇年（昭和五）三月成立したブリユーニング博士の內閣は出來うるだけ國際協調主義に依つて財政上の難關を打破しようと圖つたが、失費多く豫算編成が出來ず議會を解散したが、その結果社會民主黨が第一位、ヒトラーの國粹社會黨が第二位となつた。されば翌々年、一九三二年（昭和七）五月三十日辭職し、軍閥出身の極右黨々首フランツ・フオン・パーペンが後を襲つたが間もなく瓦解し、國防相シュライヘルの新內閣を經て、一九三三年（昭和八）一月三十日アドルフ・ヒトラーが新進氣銳の意氣を以て、其の統率せる國粹社會黨を率ゐ、更にフオン・パーペンの助力を得て內閣を組織した。

ヒトラーはもとオーストリア系のドイツ人で一八八九年（明治二二）オーストリヤの小邑ブラナウに生れた。幼にして父母を失ひ、十五歲で孤となり、ペンキ職となり具に人生の慘苦を味うた。初美術家、後に建築家たらんとし、一時徒弟生活に入つて建築の實務を練磨するところがあつたが、其の頃カール・マルクスの所說

を讀んで得る所あり、更に諸種のドイツ史を讀んで民族的國粹精神を喚起されたことが少くない。大戰の起るや自ら軍卒として戰に參加し、後に鄕國オーストリヤを出でゝドイツのバイエルンの首都ミユンヘンに至り、茲に國粹社會主義の大成に從事することになつた。ヒトラーは生れ乍らにして辯才に長じ、殊に青年の志氣を鼓舞するに妙を得、又非凡の組織的能力を有してゐたことが彼を大成せしめた一要素でもあらう。

是より先、一九一八年（大正七）のドイツの革命後、共產主義者の暴動各地に起り、バイエルンの地も亦、混亂騷擾の巷となつた。此の時、かゝる無秩序の狀態に對し、武裝自衛を目的としたる民族的社會黨卽ち國粹社會黨が生れた。民族主義と反個人主義、反國際主義を主張し、その聲價を高め、一九二四年（大正一三）には大戰當時の勇將ルーデン・ドルフを總帥に推したが、その歿後ヒトラー代つて總帥に任じ、愈々其の組織を整へ盛んに示威運動を行うて氣勢を昂め、共產的社會主義者に對して陰然たる一敵對團體たるに至つた。

さて當時の國粹社會黨の綱領は一九二〇年（昭和九）二月二十四日に起草され、翌日ミユンヘンなるホーフ・ブロイハウス王廷釀處で宣明されたもので、非個人主義、全體主義を立て前とし、社會主義的色彩を帶ぶる所少くなく、凡ゆる公民は何れも勞働の義務ありとし、不勞所得、戰時利得の如き資本主義的通弊を打破せんとしてゐる。彼の民族的國粹精神にあつては、大ドイツ的民族統合を主張せるところから、彼が一九三三年（昭和八）一月三十日首相となるや、共產黨、社會黨の嚴壓、ユダヤ人の迫害、言論出版にも大なる制限を加へて反對者を屛息させたのであつた。

然るに講和條約の改訂、軍備平等權要求の主張はフランスは勿論他の諸國から容れられないので、ドイツは突如一九三三年（昭和八）十月十四日國際聯盟並に軍縮會議の脫退を宣言し、痛く列國を驚かしてより現狀打破を叫ぶ事多く、歐洲平和の多難なのを思はせた。是に對してフランスは飽く迄、ドイツ抑制の方針を固執し、一九三四年（昭和九）九月東歐ロカルノ協定を結んで、東歐バルト海方面諸國と共に平和維持、相互援助を約して暗にドイツに備へた。而もフランスはドイツの進勢に晏如たる能はずしてロシヤに接近し、佛露兩國間に軍事協定を結び（同年十二月）、翌三五年（昭和一〇）五月には相互援助協定を成立せしめ、恰も大戰前の佛露同盟を再現した。

また中歐より東歐にかけての平和保障、現狀維持に就いては上述の如く獨佛の對立は依然として已まず、一九三三年（昭和八）三月の英獨佛伊の四國協約も結局所期の目的を達せず、英國も亦是について年來盡力した る效もなく、遂に佛露の接近、それに對して英獨接近の形勢を生むに至つた。卽ち獨英兩國間の協議は一九三五年（昭和一〇）三月以來進みつゝあつたが、六月に至り英獨海軍協定の成立を見、英國はドイツ海軍の復興ー對英約三割五分を認めた。

是より先、ドイツは同年一月人民投票に依つてザール地方をドイツに歸屬せしめることに成功し、更にヒトラー總統は同月十六日ドイツ再軍備の爆彈的宣言を以て氣勢を揚げ、世界の政局に大衝動を與へた。聯盟がこれに對して抗議を提出したことは勿論であるが、特にフランスが飽くまで此の國際聯盟の趣旨を徹底せしめることに努め、チエコ・スロヴアキヤ、ユーゴー・スラヴイヤ、ポーランド等の東歐諸小國と提携し、一九三五年（昭和一〇）の初ローマ協定を結んでドイツ包圍陣を作つた。

又ヒトラーは前記の國際聯盟脫退に關して國民の信任を問ふため、一九三三年（昭和八）議會を開散して總選擧を斷行したが、少數の棄權や無效のものを除いて、一票の反對なく全投票がナチスに投ぜられたので一國一黨主義によるナチス獨裁は完成した。而るに一九二五年（大正一四）第二代大總統に選ばれたヒンデンブルグ元帥は一九三五年（昭和一〇）四月再選されたが、翌々年一九三四年（昭和九）八月二日八十八歲にて任半ばに歿し、ヒトラーは同十九日の人民投票により大總統となつた。

かくてザール復歸に勝ち軍備制限を廢棄し、一九三六年（昭和一一）三月にはロカルノ條約の廢棄を宣言しライン地方の非武裝地帶にドイツ軍隊を進入駐屯せしめた。ドイツはフランスが列國と協定して國際的ドイツ包圍陣を固めつゝあることを指摘して此の擧に出た。このドイツの爆彈的な行動に對し、三月ロカルノ條約調印國會議が開かれ、英、佛、伊、白四國は提携してロカルノ軍事協定を結んだが、イタリヤは餘り熱がなかつた。而もイタリヤは三月既に墺洪兩國と協定を結び、また終にドイツの橫紙破りを抑へることが出來なかつたので、自ら舊時の獨、墺、伊三國の同盟が再現した觀夏に至つてドイツ、オーストリヤとの協定が成立した。この獨伊接近に對し、フランスがロシヤとの相互援助條約を强化し、チエコ・スロヴアキヤ等の小協商國を味方とし、更に英國と步調を共にする方針に出たことを呈し、イタリヤは益々ドイツと提携するに至つた。

は云ふまでもない。

ドイツの植民地問題は今後の大きな問題であらう。是はヴエルサイユ條約と同時に發生し、古い問題である。元來ドイツの植民地は、ドイツは植民地の統治に適せずといふ奇怪にして薄弱なる口實の下に掠奪されたものである。今やヒトラー治下のドイツが、社會上、經濟上の再建を目ざして活動せるとき、資源獲得の必要上開きなほつて返還を迫つた場合、英佛としてはそれを却ける辭がない。英佛はドイツの發展を恐れるの餘り、ドイツの聯盟復歸、空軍制限等を代償として植民地のことを考慮しようと云ひ、植民地の一部返還によつて强大ならんとするドイツを抑へようとしてゐる。一九三七年（昭和一二）十一月中旬、英樞相ハリフアックスのヒトラー總統訪問はその豫備行動であつた。ついで同月下旬ショータン佛首相およびデルボス外相の訪英は、ハリフアックス卿がドイツから齎した報告に基いて新に對獨政策を討議したものである。ドイツ自身は「植民地返還要求は絶對的のものであつて取引の具にあらず」と宣言し、兩者の交涉の立場は全然異つてゐる。ドイツの正しき要求の前に、英佛がいつまで言を左右に託することが出來るか。今年三月中頃の英獨會談は祕密に行はれたが、ドイツ側は原則として植民地返還問題と反獨の英國新聞取締り方を要求してゐるに對し、英國は是を受諾せず行なやみとなつた。

b　ポーランド廻廊問題

舊ドイツ帝國のうち西プロシヤ、ポーゼン兩州の大部分は、新興一九一九年（大正八）一月成つたポーランドに海への出口を持たせるため、廻廊として同國に與へられ、爲に東プロシヤは他のドイツ領から切斷されたポーランドは翌一九二〇年（大正九）前年のパリー平和會議に未決定のその東境、卽ちロシヤ方面に境界を廣めんとしロシヤと開戰し、ロシヤ軍を擊退した勢に乘じ、東プロシヤの東隣リトワニヤに侵入し、當時の首府ヴイルナと其の周圍の地とを占領し、ロシヤとリトワニヤとを分離することに成功した。リトワニヤも固より此の劫掠に承服せず、ニーメン河とメーメル港をポーランドに鎭して之に報いた。國際聯盟は兩國の紛爭を和解せしむべく干涉の手を伸ばしたけれども不成功に終つた。その後も兩國間の空氣は充分に融和しない本年一九三八年（昭和一三）三月十日夜國境に於ける兩國軍隊の衝突事件より兩國關係が緊張したが、露國はリトワニヤを見殺しにし、フランス、イギリスも是を助けないのでリトワニヤはポーランドの最後通牒を受諾し兩國關係は一應解決した。

由來ポーランド誕生の曉には、上シレジヤなる獨波兩國人の國籍取得のため國民投票によつて此の分割を行つたが、前述の廻廊問題、上シレジヤ問題は唯列國の放縱なる取り決めであつて、民族主義を徹底させるといふ美名に隱れてはゐるものゝ、その實民族主義を蹂躙して憚らざる一箇の不法を犯してをり、又經濟上の緊要事といふ美名に匿れて、ダンチヒ、メーメル等の要地をドイツより奪ひ、之を自治的主權の下にポーランドに利用さすに至つたのは、事實ドイツの經濟復興を困難ならしめ、又戰費賠償の責任を果し得ざらし

むるもので、ドイツは常にメーメルをその統治に入れんと目論んでゐる。

此の國は地理的に露國、ドイツの兩強大國間に挟まれてゐるので、國防と外交とに國家存亡の運命をかけねばならない國である。又此の國防を擔當する國軍總督スミグリー・リズ元帥、ベック外相等は近來防共諸國と密に提携し、露國の思想侵略に對する聖なる守りの陳に參加せんとしてをり、ドイツとの關係も大分調整されて來た樣である。

ドイツは是に乘じてポーランド廻廊をポーランドより回復し、その代りに同國を助けてドニエストル河の彼岸露國のウクライナを取らせようと考へてゐると云はれる。

c 防共協定の成立

一九三六年（昭和一一）十一月二十五日、日獨兩國間に共産主義運動に對する共同防衛の協定がベルリンにて成立した。露國コミンテルンの人民戰線運動が、世界各國を脅かしつゝあることは明瞭のことで、東洋に於いては帝國、歐洲に於いてはドイツが特にその脅威に曝露されてゐるので、それに對する共同防衛の必要を痛感する日獨兩國間に防共協定の成立したのは當然である。

是より先、一月三十日ナチス政權四週年紀念日にヒトラー總統がヴエルサイユ條約中の大戰責任條項破毀を宣言したのを皮切りに、獨伊兩國はすでにのべ又のべる如く活潑な外交的活動を展開、一九三七年（昭和一二）十一月六日のローマに於ける日獨伊三國の防共協定の歷史的調印となつた。夏に昨今年（一九三七年）兩國は滿洲國を承認し、やがては同國、イスパニヤ、ポーランドとも加へて防共陣は强化せられんとしてゐる。

d 獨墺合併

歐洲諸國中、其の構成民族が最も複雜で屢々分裂の兆があつたオーストリヤ・ホンガリヤ國は大戰に敗れて果然大分裂を見、その五千萬の人口は新興の四ケ國（ポーランド、チエコスロヴアキヤ、ルーマニヤ、ユーゴースラヴイヤ）と在來の三ケ國（ホンガリヤ、オーストリヤ、イタリヤ）に歸し、新オーストリヤは僅に六百五十萬の人口を有するに過ぎなくなつた。

かく人口の激減したオーストリヤは、其の全人口の三分の一、二百萬の人口をもつ首府ウイーンと其の餘の人口四百五十萬に過ぎぬ地方とから成つてゐる。かく人口上首府と地方との懸隔が甚しい。更に地方は山嶽地帶が主で平野が少いから、二百萬市民を養ふ力がない。大戰後首府では社會主義者が政權を握り、地方民の納稅を自由に勞働者の利益に費やし、カトリック敎徒で保守的な地方農民は之と反目した。是では國家として立ち行く筈がないので、國際聯盟や外國の銀行が度々救濟の手を伸ばして、之を破滅から救出した。

オーストリヤはナチスドイツとファシストイタリヤとの間に挟まつて、南北から重壓を受けてゐる。それで獨立を維持するには、他の强國からの力强い支援がない限り、自國の政治家の手腕で巧にイタリヤとドイツとを操縱する他に途がない。オーストリヤの人口の九十九%までが、北方の隣國ドイツと同民族、同言語

同文化をもつから、オーストリヤにはドイツと合併を望む者も多く、嘗て一九三四年（昭和九）六月歴史的都市ウイーンにナチス暴動が起り、ドルフス首相が射殺された事件もあるが、此の合併は一九一九年（大正八）九月の對墺平和條約、パリーの西サン・ヂエルマン條約が許さない。ドイツは因より之を併合したいが、ヴエルサイユ條約で禁せられてゐる。イタリヤは兩國の併合が、偖り强き北方の隣國を作ることを恐れてオーストリヤの獨立を支持し、佛英も同樣の態度を取つてゐた。更に一九三六年（昭和一一）四月オーストリヤは强制徴兵制度施行を宣言して、周圍の小協商國を驚かせた。

イタリヤが國際聯盟を脫退して間もなく、一九三八年（昭和一三）一月十日以來、伊外相、オーストリヤ首相、ハンガリヤ首相などがハンガリヤの首府ブタペストに會合し、墺洪兩國の獨伊防共樞軸への協同、兩國の防共協定への贊意、イスパニヤのフランコ政權承認手續の用意、國際聯盟が主義上抗爭團體たる限り兩國は聯盟機構は再考することなどを定め、世界の人民戰線側の集團に對して一の爆彈を投じた。

その後ムツソリーニ伊首相とリツベントロップ獨外相の合議の結果、一九三八年（本年）二月十二日バヴアリヤのベルヒスガーデン山莊に於いて、ヒトラー總統、シュシュニック墺首相が會見し、ヒトラー總統の勸告に從ひ、十六日フオン・ザイス・インクヴアルトを入閣せしめ、警察權を是に司らしめるのみならず、ヒトラー總統の要求通り內相を首相の支配から引き直して獨立の立場に立たしめ、自由權限を與へることゝし、オーストリヤを全くその支配下に置くことにした。インカートなどの墺國ナチスの勢力を政治上に反映せしめたのは、ヒトラーが本國內のナチス黨と軍隊の對立抗爭といふ國內問題から國民の注意を國外問題に移したのである。

更にこのことはヒトラー總統が豫ての所信たるアンシュルス（獨墺合併）に斷然一步を進めたもので、一九三六年（昭和一一）七月の獨墺協定が兩國內の親善關係保持を公約しつゝも、ドイツはオーストリヤのナチスに對しては何等干涉せぬことを誓約したことを考へ合はすれば、その急激な變化に驚くの他ない。かくてオーストリヤのナチスは公然と活動することを許され、同じゲルマン民族から成るオーストリヤのナチス化は盛となる。是はドイツの中歐政局に於ける進出、英佛の勢力の退却で、中歐の大きな癌の一つは除かれた。

かくてオーストリヤ政府は國內の趨向に鑑み、本年一九三八年三月十三日獨墺合邦案を國民投票に問ふに決し、首相シュシュニック博士の同國內に於ける勢方範圍を明確にせんとした努力が却つて反對の結果となつた。卽ち十日夕刻から、前夜、敬虔な舊敎徒なるシュシュニック首相が聲明した國民投票は、全く拔打的に發表したこと、ナチス黨が靑年間に人氣があるに鑑み、投票有權者を二十四歲以上に決したことに憤激して全國のナチス黨員が起つて示威運動を開始したのに、政府側はこれに彈壓を加へんとしたため遂に暴動化し、ウイーン市內到る所に若きナチス黨員が數百數千一團となつて、軍隊、警察隊と正面衝突乃至は對峙し、建築物を破壞し喧躁を極め、軍隊、飛行機の威嚇鎭壓も功を奏せず、暴徒の數は增すのみで、口々に「ハイル・ヒトラー」、「ユダヤ人を殺せ」の喚聲大きくなる一方である。ドイツは首相に取消しを要求した

ので内閣は十一日總辭職し、ドイツ軍は同夜國境線を越えてウイーンに急行し、オーストリヤナチスの領袖にて内相のザイス・インクヴアルト首相となり、更にミクラス大統領に辭職を要求し終に實現した。

かくてまづ十一日夜ドイツのゲーリング空相ウイーンに來り、ナチス分子を激勵した。獨墺合邦問題は二十年來の懸案である。されば舊王室ハプスブルグ家の再興を念願とするシュシュニック墺首相は合邦の實現により、澎湃たるナチズムの怒濤に押しつめられて玉碎した。是恰もよし、佛國ショータン内閣は經濟回復に關する全權委任法案に對する社會黨、共產黨の一致反對にあひ、成立後僅に五十日にて辭職し、ブルーム の後繼内閣が誕生の胎動を示してゐる時であつた。

アンシュルス問題は古く大戰の講和會議と同時に開かれたワイマール憲法制定會議において議に上つてゐるのである。オーストリヤ國民の一部もこれに應じて同族合體を主張したのであるが、戰勝に誇る聯合國側は、傷ついたドイツと瀕死のオーストリヤとを抑へてその志を遂げしめず、ヴエルサイユ條約中に明確に禁じた。併し兩國民はその素志を棄てず、一九三一年（昭和六）には獨墺關稅同盟案といふ形に於いて、アンシュルスを經濟的に實現しようとした。此の時も舊聯合國、就中フランスが强硬に妨害して兩國民の企圖を水泡に歸せしめた。けれどもかく自然に背くこの妨害が永久に功を奏するとは考へられないことであつた。殊に一九三三年（昭和八）ヒトラーがドイツを指導することになつてからは、ヴエルサイユ條約が容赦なく蹂躙されてゐるのを見るとき、此の實現が寧ろ遲きに失したとさへ思はれる。

ザイス・インクヴアルトは間もなく十三日總統兼首相となり、ドイツでは總統令をもつてオーストリヤを合併するの法律を公布し、オーストリヤ國民の贊否を問ふ二十歲以上の國民投票を四月十日に行ふことになり、ヒトラーは十四日ウイーンに入つた。米國は四月九日合邦を正式に承認し、投票は九八乃至九九%の好成績を擧げ、合邦の名實共に完成した。

e　ドイツとチエコ・スロヴアキヤとの關係

大戰後新興の諸國の中、オーストリヤ・ホンガリヤの分裂によつて新に建設されたチエコ・スロヴアキヤ、ユーゴースラヴイヤ、ルーマニヤの三國は戰後、一九三三年（昭和八）二月同盟條約を結び、所謂小協商國を作つた。是等の條約の目的は、一にホンガリヤの舊領奪回を阻止するにあり、又同年七月にはロシヤと不侵略條約を結んだ。

そのうちチエコ・スロヴアキヤの人口千五百二萬、その七割はチエッコ人、スロヴアック人ガ占め、ドイツ人約二割、マヂヤール人、ルテニア人が約一割を占めてゐる。此の國は殆んど全部大戰前のオーストリヤ帝國の一部から成り、僅にドイツの上シレジヤの一小區域をそれに加へたものである。卽ち舊オーストリヤ領内で人口の最も稠密なボヘミヤは全く此の國に含まれてゐる。國勢上では、大戰後の新興國中最も成功した國である。其の强味は豊富な經濟資源を有することで、農產物は自給自足し、工業も進歩し多額の輸出が

ある。唯内陸國で海港がなく、貿易は唯々國際河川と鐵道とによる他ないのは此の國の缺點である。

一九三八年（昭和一三）三月十一日獨墺合併なるや、隣國チエコスロヴアキヤは同日及び翌日緊急閣議を開き國境を堅く警備し、民間の武器輸出を嚴重に制限した。此の後十六日にフランス、チエコ・スロヴアキヤ、ロシヤの三國間に相互援助を目的とする新協定が成立し、チエコ・スロヴアキヤが外國より攻撃を受けた場合に佛露兩國は此の條約に基づき共同して軍事援助を行ふ旨を發表した。

此のバナナ國の東半分はチエッコ人の住んでゐる土地で、その國の周邊、特にボヘミヤ地方、ドイツの國境に沿ふ山の斜面に問題の三百二十萬の所謂ヅーデンドイツ人が住んでゐる。首府プラーグは周圍のドイツ國境から僅に百粁乃至二百粁しか距つてゐず、ドイツからの攻撃に對しては全く脆弱な位置にあり、一九三〇年（昭和五）の國勢調査によるとチエッコ人は全人口の半分しかなく、最も同化し難いドイツ人が人口の四分の一で、實際國を牛耳つてゐるのはチエッコ人でスロヴアック人はチエッコ人に對して種々の不滿をもち、ユダヤ人を除く他の人種は國境一つ越えれば、自分らの祖國なのでチエッコ人の支配下にあることを喜ぶ筈がない。もと〳〵此の國は大戰後舊聯合國の庇護の下にチエッコ、スロヴアックの兩スラヴ族が、民族自決主義に基いて建てた國であるとは云はれるが、寧ろ聯合國がドイツ國家再興を抑へるために、ドイツ民族を分裂させてその勢力を弱める意圖をもつて斯樣な不自然な國を作つたのである。

三百萬を越えるチエコ・スロヴアキヤ内の獨墺に挿まれた地方のドイツ人は、ヒトラー政權樹立以來頓に

威勢よく、ヒトラー總統の意を受けたヘンラインの下に團結し、ヅーデンドイツ黨は一九三五年（昭和一〇）の選擧で一擧に議會に四十四の議席を獲得し、チエッコ農民黨に僅に一席を讓る第二黨に躍進したが、內閣には望み通りの樞要な椅子を與へられなかつたので、以後反對黨として政府に參加せず、ドイツ人の自治を要求してゐた。

而るに本年一九三八年五月三日、ヒトラー總統はイタリヤ第二回の訪問をなし、ヒトラー總統がチエコ・スロヴアキヤ問題を平和的に解決せんとすることに對し、ムッソリーニ伊首相は「好意的中立」の態度を保持することを約した。一方ドイツとチエコ・スロヴアキヤとの間に五月十六日爲替協定が調印されたが、矢張り兩國關係はチエコ・スロヴアキヤの國內狀態に應じて緊張し、ドイツは最近軍隊移駐を斷行してチエコ・スロヴアキヤをめぐる國境山岳地帶の防備を固め、國境を越えて同月二十一日獨人射殺事件發生し、事態は險惡化し、同時に北部ボヘミヤのグラスリツツに戒嚴令が布告された。露國は約によりチエコ・スロヴアキヤ援助のため、ルーマニヤ國境近くに兵を集結したためポーランドもホンガリヤも夫々別の意味で緊張したが、二十三日同國ナチス代表ヘンラインはホッザ首相と會見したので小康を得てゐる。併しドイツの併合までには幾多の困難が豫想される。

f イタリヤ

一九一八年（七大正）同盟側との休戰條約が成立すると同時に、大戰末期より起つてゐた政治的、經濟的、社會的の混亂は早くもイタリアの全土を見舞つた。政治上にはアドリヤ海の問題が未だ解決せず、經濟上には戰時中急激に發達した諸工業が一時に休止し、幾萬の勞働者は次第に解職の悲運に泣き、辛うじて殘留せる勞働者も勞銀は上らず、戰爭中に暴騰した物價は思ふやうに下らず、而も一面には敵國から解放された數十萬の俘虜は一時に歸還し、失業者の續出となり、社會上にも寔に容易ならざる暗影を投ぐるに至つた。尙又戰爭成金といふ樣な者が、肩で風を切つて街頭を練り、自然勞資の對立の素因を蒔き散らすやうな有樣であつた。

かくて一九一九年（八大正）十一月に行はれた總選擧の結果は社會黨の躍進、增加となり、在來の約二倍の數一百七十名となり、憲政黨百八十九名に次ぐ尨然たる大勢力となつた。更に翌一九二〇年（九大正）九月、通（インフレーション）貨膨脹による物價騰貴と失業者續出とのために、北イタリヤに騷擾起り縱にロシヤの過激思想を謳歌し、遂には直接行動によつて己が地位の改善を圖らうと企つるに至つた。

此の後內閣が數度替り社會民心の動搖甚しき時、ファスシスチの運動が起つた。ファスシスチ Fascisti はイタリヤ語のファスシオ Fascio 卽ち黨派なる言葉に出で、黨人なる意味を有する。尙ほファスシスチは複數形であつて單數形はファスシスタ Fascista である、此のファスシスチの運動こそ世界大戰の產物とも云ふべき社會的思想に對する反動であり、積極的、武斷的直接行動によつて民族的國家主義を實現せんとするのである。

その端緒は大戰當時、從軍兵が戰友團なる會合を組織して時々集會し、民族國粹主義を謳歌して互に交情を厚うしたことにあり、何等組織的のものでなかつたが、後ムッソリーニの輔導により、一九一九年（八大正）三月最初の結黨式が行はれ、團員數は一九二三年（一二大正）には四、五十萬の多きを算するに至つた。

ムッソリーニは一八八三年（一六明治）七月二十九日、北イタリヤの片田舍に生れ、十八歲にして小學校に敎鞭を執つてゐたが、直情徑行の熱情家で、當初マルクスの學說に親しみ、社會黨の黨人となつてゐたが、其の後社會黨より除名處分を受け斷然心境に一轉化を來し、熱烈なる愛國主義、民族主義を唱導するに至つた。

ファスシスチの綱領は ① 飽くまで國家に忠實なること、② 革命の手段を避くること、③ 民族力を一にして共力を惜まざるべきこと、④ 個人的能力とそれが努力に制限を加へざるべきこと。の四項であつてコスモポリタニズムの傾向を帶ぶる社會主義的傾向とは形式、內容共に自ら異なるところがある。

結黨後ムッソリーニの率ゐるその別軍、黑襯衣隊、その民兵は反社會主義的の主張に立つて猛然たる活動を開始し、實力により共產主義者を壓迫し、私有財產を擁護し有產階級に安定を與へた。かくてムッソリーニは一九二二年（一一大正）十月三十一日大命を拜して內閣を組織した。政治の方針としては、一面全體主義、非個人主義を唱へ、資本主義にも若干の修正を加へ、革命的暴力手段を避け、勞資協調して國家の勞働能力を增進せんとした。彼は「政府の第一の義務は强くなるといふことにある。致府には最高至上の權利が附隨せ

ねばならぬ。國家をして強力ならしめんため、自由が犧牲に供せらるゝなら、自由は喜んで之を抛棄せねばならぬ。要するに個人は國家に對して自己を犧牲にするの義務があるものである。」と云つてゐる。かくて國家の强大を保たしめるため、六千萬の人口を保有することを理想とした。されば此の見地に立つて種々の改革を斷行し、政治形態にも變更を加へた。その後一九二六年（大正一五）フロレンスの北ボロニヤに於けるムツソリーニへの加害未遂事件があつて後、同派の專制は益々徹底し、ファッシスチ以外の政黨及び勞働團體は極度に彈壓され、新聞紙、言論の自由は全く禁止された。

由來議會政治は大戰後の不安によりて、歐洲諸國一般にその意義を弱めてゐたが、ムツソリーニも同樣にかねて兩院組織による議會制度に不信を抱いてゐた結果、遂に一九二五年（大正一四）十一月强力を以て議會を閉鎖したこともあり、更に一九三三年（昭和八）十一月十四日には下院の廢止を斷行し改革を行つた。

イタリヤは本來ドイツと等しくヴエルサイユ條約に不滿をもつ一員であつて、大戰後寧ろドイツに接近し佛國と對立する形勢にあつた。而もファッシスチ政權によるムツソリーニの獨裁政治は益々完成され、イタリヤの國際的地位も最近著しく向上して、國際政局を動かす重要勢力となるに至つた。さうして中歐に於けるドイツの自主的態度が露骨となり、やがては獨墺合併の氣勢さへ認められるに至るや、イタリヤも從來の親獨的態度を一變して、オーストリヤを後援してドイツの南下に對抗する態度に出づるに至つた。卽ち一九三四年（昭和九）六月、ムツソリーニはドイツのヒトラーとヴエニスに會見したるも充分の效果なくして終つた

次いで同年七月ドイツのナチス黨が黨內異分子の排擊に成功し、ナチス政權の基礎安定するに及び、オーストリヤ國內のナチス分子は暴動を起して、オーストリヤ首相ドルフスを暗殺した。此の爲めオーストリヤはドイツを離れてイタリヤに接近し、イタリヤも亦オーストリヤを援けて、ドイツに當る決心を固めた。さうして一九三五年（昭和一〇）四月北伊ストレーザに開かれた英、佛、伊三國の會談は、是等諸國が平和維持に努める方針を明かにし、併せてドイツに備へる態度をも示したのである。

又イタリヤとアルバニヤとの關係は帝國と關東州とのそれに似て、アルバニヤの經濟的開發のためにイタリヤの銀行が力瘤を入れてゐる。されば一九三四年（大正四）二月、ギリシヤ、ルーマニヤ、ユーゴースラヴィヤ間にバルカン盟約が結ばれ、イタリヤの東方進出に備へたが、ブルガリヤとアルバニヤとは是に加はらなかつた。

g　佛伊關係とエチオピヤ

イタリヤは人口增加率の大きな國である。されば世界大戰のさ中、一九一五年（大正四）四月二十六日英佛兩國とロンドン祕密條約を結び、「大戰の結果、英佛二國にして若しドイツを犧牲としてアフリカに發展し得るやうな場合、是等兩國は代償として、イタリヤに對し、アフリカのエリトレア、ソマリランド、さてはリビヤ方面での發展を許容することにする」と約した。かくてその實、大戰後英佛から東部アフリカに小地域

の割讓はあつたが、イタリヤの欲望を滿足さすべき程ではなかつた。此の間に內閣を組織したムッソリーニは反對を唱へたが、フランスは是に應せず、更にイタリヤの亡命客を容れたことは兩國の不和の間柄を一層強くした。

併しドイツの復興に對する警戒心は兩國をして漸次親近ならしめ、殊に佛外相バルツーはドイツ包圍政策に熱中して、東歐諸國及びロシヤのみならず、イタリヤをもこの包圍線に參加せしめることに成功した。バルツー外相は、一九三四年（昭和九）十月マルセイユにユーゴースラヴイヤ王アレクサンドル一世を歡迎した際王がユーゴースラヴイヤ國內の民族的軋轢の犧牲となつて暗殺されたと共に彼も亦橫死した。併し佛國の對外方針は毫も動搖することなく、ラヴアール外相の努力の下に着々步を進め、遂に一九三五年（昭和一〇）一月佛伊兩國の協定が成立し、佛國は中央アフリカのサハラ及びソマリランドに於いて領土の一部をイタリヤに讓渡し、イタリヤはドイツに對し佛國との提携を固めることゝなつた。さうして此の佛伊相互の了解の結果、イタリヤが年來企圖せるアフリカへの發展は益々露骨となつて來た。

イタリヤが、アフリカ大陸の東北部に著眼してから既に半世紀になる。同國は十九世紀中既にエリトレア伊領ソマリランドを取り、又黑人帝國エチオピヤをも一旦保護國としたが、その後エチオピヤがイタリヤを疎んずるに及び、同國の保護權を要求してイタリヤは遠征軍を出したが、一八九六年（明治二九）アドワに大敗して終に獨立を承認し、イタリヤの此の方面の活動は久しく鈍つた。併し未だ是を放棄せず、一九〇六年（明治三九）英佛兩國とエチオピヤに於ける利權の分配を約した。その後一九一一、二年（明治四四四五）の伊土戰役でトルコからトリポリを得たが、此の地方は大部分沙漠で、イタリヤの發展の欲望を滿たすに足りなかつた。大戰後ムッソリーニが獨裁的政權を握り、工業資源の充實、人口問題解決のため海外に新領土を獲るを痛感し、一にはアドワの敗辱を雪ぎ、自己の政權を鞏固にするため、隙てエチオピヤに注目して好機の至るを待つた。

偶々一九三四年（昭和九）十二月エチオピヤ兵と伊領ソマリランドの土民兵とがその境界ワルワル地方に於いて小競合を始め、その歸屬問題よりエチオピヤと紛議を醸し、エチオピヤは相當讓步し、又問題を國際聯盟に訴へたし、イタリヤは兩國間の地方問題として解決せんとして互に讓らず、イタリヤの態度は一九三五年（昭和一〇）一月七日、ローマに於いて佛伊間に協定成立し、ドイツの南下共同防止、フランスのエチオピヤ問題無干涉を約してより以來著しく強硬となり、英佛兩國の和協運動にも應せず、遂に十月エチオピヤと開戰するに至り、イタリヤは二十萬の兵をソマリランド、エリトレアに送り、アドワを占領する等着々侵略を進めようとした。さうして英國はアフリカに於ける自國の利權擁護その他の理由から、エチオピヤを援けてイタリヤに高壓的態度に出たことは、一層イタリヤの態度を硬化せしめた。更に英國は佛國を激勵しつゝ聯盟諸國と結んでイタリヤに對する制裁を斷行すると共に、一方佛國と共に交戰國に和協を實現せしむべく努力した。此の紛爭に際しロシヤは明かに英國支持の態度に出で、又合衆國は中立維持を聲明したことは共に注目に値する點である。フランスは英伊間の板挾みとなつて苦しみ乍らも、大體に於いてイギリスの現狀維持に

味方し、國際聯盟派の首腦としてイタリヤを擊肘する立場にあつた。それ等の結果一九三五年（昭和一〇）末に國際聯盟はイタリヤに對し經濟制裁を加へる案の實行に着手した。イタリヤは是に屈せず、一九三六年（昭和一一）春以來エチオピヤに對して着々軍事行動を進め、その優れた近代的兵器の威力によつて、連戰連捷遂に五月エチオピヤの首都アヂス・アベバを占領し、ついでエチオピヤをイタリヤに併合し、總督政治を布く旨を宣言した。

かくて聯盟の對伊制裁も全く無効に終り、聯盟の各國は既成事實の前に拱手傍觀するの外なかつた。さうしてドイツは一九三六年（昭和一一）七月イタリヤのエチオピヤ併合を率先して承認すると俱に、そこに領事館設置を宣明し、中歐兩獨裁國の提携が成立した。元來エチオピヤ紛爭の解決に就いては、一九三五年（昭和一〇）十二月、英佛兩外相ホーア、ラヴアールの間に妥協案が成立したのであるが、英國内部にも亦聯盟國内にも反對が起り、遂にこの試案は成立せず、ホーア外相は失脚して了つた。即ちこの妥協案の失敗が却つてイタリヤの決意を刺戟して、エチオピヤ征服に邁進せしめた結果となつた。

是より先、一九三六年（昭和一一）七月イスパニヤに内亂が起り、ドイツ、イタリヤは右翼の叛軍に味方し、ロシヤは左翼派の政府側に聲援し、フランスも各國に對し不干渉協定を提議し乍ら、政府軍を支持し、ポルトガルは叛軍に同情するに至つた。多年フランスの翼下にあつた東歐の小協商諸國に於いても、ルーマニヤ國先づ右翼化し、チエコ・スロヴアキヤ、ユ！ゴースラヴイヤも亦動かんとし、ホンガリヤは夙にイタリヤに

從つてゐるので、獨伊を中心とせる右翼ブロックが中歐に確立し、ヨーロッパはイスパニヤ動亂を繞つて、左右兩翼ブロックの對立を見るに至つた。

その後イタリヤは防共協定に參加し、國際聯盟の原則を無視して、一九三七年（昭和一二）十一月二十九日滿洲國を承認し、帝國は伊領エチオピヤを承認した。又イタリヤがイスパニヤのフランコ軍に對する援助を放棄しない限り、英伊友好關係確立に關する會談を開始することを拒否し、その他イギリスの態度に嫌らぬものあり、又日獨兩國政府と行動を一にせねばならぬため、終に一九三七年（昭和一二）十二月十一日英國の指導せる國際聯盟を脫退し、瀕死の老朽機關に致命的打擊を與へた。

一九三七年（昭和一二）十一月六日イタリヤが新に防共協定に參加した時には帝國は舉國その成立を祝し、東京、ベルリン、ローマ樞軸によつて露國を東西より挾擊してその思想侵略、赤化主義を封じ又持たざる國の持つ國に對するブロックを形成し、國民戰線の人民戰線に對する結成となり、獨伊の對日感情はとみに好轉した。

その後イタリヤのエチオピヤ併合を承認する國家多く、本年一九三八年五月十八日迄には二十六ヶ國の多きに達した。

h　トルコの發展

ヨーロッパに近く、此のブロックには參加してゐないが、同じく右翼と考へられ、歐人に伍して萬丈の氣を吐くものにトルコがある。同國は十九世紀以來「ヨーロッパの病人」と云はれてゐたが、二十世紀に入つて十年間に四回對外戰をした。イタリヤ戰後、バルカン同盟戰役、世界大戰に於ける對聯合國戰、一九二一二年（大正一〇）の對ギリシヤ戰役である。前三者は戰ふ毎に敗れて、その領土は縮少した。中でも世界大戰ではトルコ復興を夢みて逸早くドイツに與みして起つたが、其の夢は破れ戰勝聯合國、特に英國の強要調印させた一九二〇年（大正九）八月十日のフランスのセーヴル講和條約では、トルコ領内の異民族の分離を認めさせて甚だしくその領域を減ずるばかりでなく、軍事財政の自主權をも奪ひ、トルコは僅にコンスタンチノープルと小亞の一部とを保有し、殆んど聯合國の共同管理下に立たせるものであつた。特にギリシヤに對してはバルカン半島の北部なる東西トラキヤは全部讓られることになつた。かくてトルコは殆んど在來の領土の三分の二以上を喪ひ、人口の如きも二千萬から僅々八百萬を算せざる位に激減することになつた。卽ちギリシヤは新にトラキヤ、西部アナトリヤ、又トルコ領諸島を獲得し、其の人口の如きは戰前の約二倍以上に達しトルコ領内の凡ゆるギリシヤ民族地帶を併有せんとする民族主義、換言せばギリシヤの先覺者達が懷くやうな大ギリシヤ精神「マグナ・グレーキア」の精神を遺憾なく表明するに至つたのである。

大戰の結果かくもギリシヤが異常なる發展膨脹をなし得たことは、大戰に於けるギリシヤの功績を餘りに多く評價し過ぎた爲であるとの批評もある位であるが、一には大戰中、ギリシヤの首相として非凡なる外交

的手腕を發揮したヴェニゼロスや英國の援助の効果の大なりし爲である。

此の條約成りしとき、時の武官ムスタープ・ケマル・パシヤ（パシヤー Pasha は閣下の意）は之を憤り、皇帝政府に反對して、アンゴラに國民議會を召集して條約の批准を妨げた。ケマルはトルコ領のサロニカに生れ、若くして軍卒となり、世界大戰に參加して、祖國の爲に奮鬪奮瘁した功によつて元帥の稱を授けられた。一にトルコのビスマルクと稱せられ、ロシヤのレーニン、印度のガンヂーと相並んで東方の三大偉人と稱せられる。

かゝる國粹的民主的アンゴラ政府はセーヴル條約によつて實現された「マグナ・グレーキヤ」の成果に對して全々反對である。トラキヤにはトルコ人五十三萬餘、ギリシヤ人四十七萬餘である。從つてトルコ人が多數であるから、昔通りトルコに併せて置くのがケマル一派の唱ふる民族主義の主張である。ところがギリシヤ側の主張では西トラキヤは夙にギリシヤ領たるやう決定されたところであつて今更問題とすべきいはれはない。尙ほ東トラキヤに至つてはトルコ人二十五萬に對し、ギリシヤ人は四十萬を算してゐるから、民族主義の立場から、當然ギリシヤに併合するのが至當であるとし、尙ほ土領スミルナに對しても同樣であると述べてゐる。

さればケマルの指導せるアンゴラ政府は斷然武力を以てセーヴル條約の決議を否定し、スミルナやトラキヤに對するギリシヤの主張を一掃して、ギリシヤの勢をバルカン以南に局限しやうと企てた。

卽ち聯合諸國は一九二一年（大正一〇）三月更めてロンドンに會商したが不成功に終り、復一九二二年（大正一一）三

月英佛伊の三國會議をパリーに開いたが是も不成功に終つた。かくて同年八月、ケマルは佛露の後援を得て英國の支持せるギリシャ侵入軍と、小亞、トラキヤに戰ふこと二年、一九二二年（大正一一）夏、ギリシャ軍を小亞から驅逐し、更に聯合軍の守備した海峽中立地帶に侵入せんとしたので、聯合國はケマルの要求を容れてギリシャと休戰させ、ついで一九二三年（大正一二）七月スイスのローザンス會議で大いにトルコの要求に讓歩して新講和條約を結んだ。此の條約によつて、トルコはセーヴル條約で失ふ筈の東トラキヤを回復し、又ギリシャの管理に屬したスミルナ及び其の背地を保有し、聯合國に海峽地帶から撤兵させ、又治外法權を放棄させて國の自由權を確立し、トルコは茲に更生した。但、舊トルコ領内の異民族居住地方は、大體セーヴル條約通りに分割され、又海峽地帶は武裝を禁せられた。茲に英國の外交は失敗に歸し、首相ロイド・ジョージも一九二二年（大正一一）十月挂冠を餘儀なくされ、ギリシャも一九二四年（大正一三）三月共和政となつた。（後一九三五年（昭和一〇）十二月王制となる）

是より先、一九二二年（大正一一）九月ケマルのギリシャ軍を破つて大勝を協するや、ケマルは機に乘じて政體の變更を斷行せんとし、十一月一日國民議會の名によつて「皇帝（スルタン）」ムハメッド六世の施政廢止を宣言し、十一月五日ラフェット將軍はアンゴラ政府に代つて皇帝（スルタン）政府の政權を引受け、回敎元首卽ちカリフの尊稱のオスマンリ王家にのみ傳はることを議決した。

やがて一九二三年（大正一二）十月大國民議會（グランド・ナショナル・アセンブリー）の決議により、アンゴラを以て首都と定め、凡ての官衙を新政府に移し、一九二四年（大正一三）四月二十日新に憲法を公布し、トルコを共和國とし、回敎を以て國敎と定め、ケマルを大統領に選んだ。

ケマルは縮少せるトルコの内部の開發と國民文化の向上に力を注ぎ、盛んに西歐の風俗を輸入し、文字をローマ字に改め、又道路鐵道の開通を急いでゐる。黑海のサムスン港と地中海のメルシナ港間、首府アンゴラとロシャ國境間の鐵道の如き、其の主なるものである。されば一九三四年（昭和九）にはケマルにアタチユルクなる家名が贈られた。そして將來進歩的なる國家社會主義的色彩を有する憲法を敷く準備として單一政黨なる聯邦人民黨の設定を一九三七年（昭和一二）二月決議した。是より先一九三六年（昭和一一）イタリヤのエチオピヤ征服と共に近東情勢の變化したるに乘じ、海峽地帶の再武裝を提議し、列國の承認を得て、直に是に着手した。又最近は佛國の弱勢によりその委任統治のシリヤ國境サンジャック地方を併合せんとしてゐる。

i 西班牙の内亂

露、獨の反噬を蒙つたものはイスパニヤの内亂である。十六世紀において歐洲第一の富强を誇つたイスパニヤもその後次第に衰ろへ、一八六八年（明治元）の革命により女王イサベラ二世は追放されたが、其の後一八四年（明治一七）子アルフォンゾ十二世卽位し、翌年その子アルフォンゾ十三世が卽位した。十九世紀の初、中南米の植民地は離反獨立し、更に同世紀末フイリッピン、キューバ等を失つて國家財政の困難益々甚だしく

上流階級が土地の大部を保ち、農民は生活苦にあへぎ、教育は教會の手に握られて迷信的保守的に流れ、國家の進運を阻む等、社會、政治、經濟何れも宿弊累積し、遂に一九三六年（昭和一一）後半の大事件たる内亂となつた。元來イベリヤ半島には、早くからイスパニヤ、ポルトガルの兩國が分立してゐるが、此の兩國を分立させたと同じ事情、卽ち高山脈によつて幾多の河谷に分れてゐる地勢は、イスパニヤ國内にさへその統一を妨ぐる一要素であり、近年になつては國内の民族的分離傾向が次第に著しくなつた。

世界大戰の當時、イスパニヤ皇帝ブルボン家のアルフォンゾ十三世は中立を嚴守したが、外はモロッコ征討の失敗あり、内はバルセロナ、カタロニヤ地方で革命運動や、擾亂が絶えず繰返され、屢々政變も起り、一九一九年（大正八）國際聯盟に加入はしたが、二一年（大正一〇）には首相ダトーの暗殺事件も起つた。その後一九二三年（大正一二）九月十三日、プリモ・デ・リヴエラ將軍が軍隊を背景として全く獨裁政治を執り、中央集權の實をあげ、モロッコ問題を解決し、ジブラルタル海峽南端タンジエルの權益につき諸國と有利な協定を結んだ。

王はその權勢を賴つて、中世的な王權を强めようとした。併し三〇年（昭和五）それが倒れ、四月その反動として共和黨等の民主的傾向が盛んとなり、更に翌三一年（昭和六）の地方議會の總選擧で共和黨は壓倒的大多數を占め、その結果革命となつて四月十四日王は退位を宣言し、パリーを經てロンドンに亡命し、四百五十年來の王政は共和國となつた。更に同年七月の中央議會の總選擧も共和黨の大勝に歸した。其の前後の紛亂に乘じ、西北部のガリシヤ人、北方のバスク人、東方地中海方面のカタロニヤ人が何れも起つて自治を要求した。革命直後には左翼派の社會主義者が多く議席を占め、急激な改革を行ひ、從來大勢力を有してゐた敎會及び大地主を抑へたが、その反動として次期の選擧には右翼派が政權を執り、中央集權を目標として、地方議會特にバスク地方及びカタロニヤ地方の勢力を抑へんとした。

かくて、左右兩派の軋轢已まず、激情的な國民性は、無政府主義、産業別組合中心主義（サンヂカリズム）、共産主義等の發育に適せる溫床を提供した。是がため一九三四年（昭和九）秋首府マドリードを始め、全國各地に總罷業が起り政府は武力を用ひて之を鎭壓したが、その際彼のリアス海岸を形づくれるカンタブリヤ山脈中のアストリアスの礦業地方の鎭壓に、現在モロッコ及び地中海岸地方に多數住し、第八世紀より第十五世紀の頃までスペイン、ポルトガルを支配して後、彼等が漸くにしてその羈絆を脫するを得たアラビヤ人なるムーア兵を用ひ流血の慘を見たことが全國民の反感を買つた。それで一九三五年（昭和一〇）ロシヤの人民共同戰線主義によつてイスパニヤの共産黨も左翼諸黨と提携して、翌年二月の總選擧に勝ち、左翼内閣が出來て、前内閣の施政を飜して、地主、富豪、僧侶、軍人等を極端に壓迫し、着々社會主義的政策を斷行し、更に右翼諸派に對する大彈壓となつた。先にものべた如く、元來がその位置歐洲の文化、産業の中心より遠ざかり、國民は諸種族の混合で、産業に不熱心だし、又無敎育でもあり、小農貧農が多く、ために思想感情動搖し、政治上の變動にもその表裏の甚しき相違が明瞭に見られるのである。前記の彈壓に耐えかねて軍隊を中心とする右翼諸派

は相呼應して起ち、先づ一九三六年（昭和一一）七月十八日、イスパニヤ領モロッコから反政府革命が起り、モロッコ駐屯軍司令官フランコ將軍は總司令官となり、同地は忽ち叛軍の手に歸し、間もなく本國南部に上陸して北上し、同時にモラ將軍の總司令官たる北軍はビスケー灣岸より南下して首府マドリードに迫り、革命軍はグアダルキヴィル河の上流セヴイリヤ、トレドー山脈の北麓トレドーを經てマドリードに肉薄した。政府軍は死力を竭して防戰したが力及ばず、政府は遂に十二月マドリードから地中海岸のヴアレンシヤに退いた。此の內亂は左右兩派の死活の鬪爭であるから、兩軍共に敵愾心に燃え立ち、戰禍は悽慘を極めてゐる。而して人民戰線諸國が政府軍を後援し、國家社會主義的國家が革命軍に左袒して、茲に思想的二大戰線が結成され、各國その利害に應じて兩軍の後援に奔走するに至つた。

露國が政府軍の最大の後援者であり、佛國も亦內亂不干涉を唱へてはゐるが、矢張り後援を惜まず、又獨伊兩國が革命軍の有力な支持者であることは云ふまでもない。又英國が內亂不干涉を主張し、中立的態度を持してゐるのも、英國の立場としては當然のことである。かくして一九三七年（昭和一二）一月二日成立した英伊地中海協定は兩國の對立激化によつて全く空文となつて了つた。

內亂は政府、革命兩軍とも互角の勢であつたが、一九三六年（昭和一一）十月頃より革命軍の軍容は嫻となり、遂に首都マドリードの一角を占領するに至つたが、政府軍もよくこれに抵抗してマドリードは未だ陷落するに至らない。併し革命軍は既にフランコ將軍を首腦とする假政府を組織し、獨伊兩國は夙くも同年十一月それを承認した。同假政府軍は依然として壓倒的優勢を示してゐるが、特に同年十二月一日、我が帝國政府の正式承認により、革命政府は一段の國際的飛躍を遂げ、名實俱にスペイン正統政府たるの地位を確立し、十二月三日には堂々滿洲帝國を承認した。

一方一九三六年（昭和一一）八月成立した國際不干涉委員會は、利害相反せる國家の聯合で相變らずの無力であり、翌年四月二十日から實施した英佛獨伊の海上監視も、政府軍側のドイツ軍艦二隻を襲撃した事件に端を發して五月獨伊兩國政府の委員會を脫退したことにより、脆くも崩壞し、續いて八、九兩月には地中海に於いて所謂「怪潛水艦事件」が續發し地中海に恐怖時代が出現した。併しそれでも九月十一日、ジュネーヴ湖畔のニヨン會議で曲りなりにも警備協定が成立したが、地中海の波は依然として穩かでない。各國から出てゐる義勇軍撤退問題についても英佛からの三國會議開催案をイタリー政府が拒絕したゝめ、全く行惱みの狀態にある。

かくて本年一九三八年一月では革命勃發以來一年有半、革命軍はスペイン全土の三分の二を確保、民心を收攬すると共に、對外的には數ヶ國の正式承認を受けて國際的地位も著しく強化したので、フランコ將軍はいよ〳〵「スペイン國民政府」を組織するに決し、三十一日自ら首相の印綬を帶びた。越えて三月十五日、フランコ軍はヴアレンシヤ、バルセロナ、マドリード三都間の連絡線を脅かすに至つた。

兎も角十九世紀を通じて最近に至る迄、歐洲紛爭の禍源であつたバルカン半島から、今や新しい禍源が西

端のイベリヤ半島に移つたことは注目に値する。バルカンの紛爭は民族問題が主にその基調をなしたが、イスパニヤの場合は思想戰の對立であることが、時勢の變化を思はせるに充分である。

五、孤立國家と東洋

歐洲の事情に超然としてゐる國家はアメリカとロシヤであを。アメリカは歐洲諸國が進んで關係を持たんとし、ロシヤは歐洲諸國より敬遠されんとしてゐる。

a 米國

一九一七年（大正六）アメリカが獨墺に宣戰して聯合國側に參加したのは正に一八二三年（文政六）十二月二日、米國第五代大統領ジエームス・モンローの唱へしモンロー主義を棄てたものと云へる。而るに大戰後は、或は國際聯盟に不參加を表明し、ヴエルサイユ條約にさへ批准を許さなかつた如きは、此の主義への復歸の樣ではあるが、此の條約により帝國の委任統治を決定せられたヤップ島に關して抗議を提出し、國際聯盟から離れて軍備問題、太平洋問題、極東問題討議の會議を招集し、或はケロッグ不戰條約に調印した如き、矛盾極まるもので、要するに、自己の國家、自己の民族の利權を擁護し、且つ是を向上促進せしめんとする目的を有するものであつて、一種の民族主義の現はれである。

此の國が世界大戰に參加したときの兵制は募兵制度であつた。併し是では到底所要の大軍を編制する見込立たず、大論戰の後、遂に强制兵役の法律を行ふことになつた。その結果として米國民が如何に雜駁であり一國民としての共同性を缺くかといふことが遺憾なく曝露された。米國の朝野はこの事實に驚き、大戰後所謂米化運動（アメリカニゼイション・カムペイン）が擡頭した。そして米化の方法としては、一面新移民の外國より入り來る數を大いに制限すると共に、既に米國内にあつて、なほ米化しない外來移民を純然たる米國人たらしむることに大いに力を盡すことになつた。是が爲、戰前まで年々幾千幾萬の移民を米國へ送つてゐた歐洲諸國は、俄にその數を減せなくてはならなくなつた。特に東洋移民に對する制限は極端なもので、帝國の如きは前から紳士協約をもつて移民の送り出しを全く自制したるに拘らず、一九二四年（大正一三）四月、排日移民法案が上下兩院を通過し、明文をもつてこれを峻拒し七月實施されることとなり、歐洲諸國と帝國とを差別待遇した。これまた米國の民族主義の顯現としての米化運動の一結果に外ならぬ。

戰後歐洲諸國の不景氣に伴ひ、米國も亦經濟的不況に苦しむこと著しく、國内の失業者も夥しい數に上つてゐた。但、一九二九年（昭和四）三月就任した共和黨大統領フーヴアーは深刻化せる不況克服に邁進し、一時景氣の向上を見たが、間もなく再び不況に陷るに至つた。殊に一九三一年（昭和六）九月滿洲事變の起るや國務長官スチムソンは帝國に對して强硬なる反對聲明を試みて失敗し、ために共和黨の人望は衰へた。

かくてウイルソン失脚以後十二年を經て一九三二年（昭和七）十一月の大統領改選には民主黨のルーズヴエル

トが壓倒的多數を以て當選し、翌年三月四日大統領に就任した。然るに就任の前後霹靂の如く經濟界の大恐慌が全國を襲ひ、一區四十八州の金融機關は停止したので、世界を失望させたドル貨幣の價値は大いに下落し、越えて四月二十日金輸出禁止をなし、產業の不振はいよ〳〵甚しくならうとした。そこで新大統領は獨裁的權力をもつて五月に農事調整法 A. A. A. Agricultural Adjustment Act 、六月に國家產業復興法（所謂ニラ政策）N. I. R. A. National Industrial Recovery Act 、——この兩者をニュー・ディール（新政策）といふ——を施行し、產業資本家に此の法の勵行を強制して、產業に關し國家の干渉權を認めしめ、最低賃銀、勞働時間の制限をなしたため、勞資の對立を激化し、翌年も勞働爭議が勃發した位であつたが、それでも景氣の建直しに大童になつた。その後是等は違憲の判決を受けたるも、その効果が現れ景氣が回復し、ついで一九三六年（昭和一一）十一月ルーズヴェルトが大統領に再選された。

翌一九三七年（昭和一二）二月五日、ルーズヴェルト大統領の司法改革に關する敎書を繞つて國論が沸騰し、その後この問題は大統領の不利に展開し、ルーズヴェルト大統領は聊か聲位を落した。又その上、上院議員ブラックが極右秘密結社に關係ありと云はれてゐるのを押切つて大審院判事に任命し、對ルーズヴェルト熱を益々煽つた觀がある。又勞働界は沖仲仕爭議、鋼鐵爭議と相繼いで旋風を捲き起し、特にジョン・ルイスに率ゐられる產業別勞働組合組織委員會 C. I. O. Committee for Industrial Orgnaizations の激烈な對資本家運動は、由々しい不安を米產業界に與へてゐる。

又對外政策には平和の方針をとり、久しく太平洋に滯留させてゐた大西洋艦隊を舊所屬地に復歸させる旨を宣言したので、日米國に漂つてゐた惡感情は多少緩和されたが、又一方十數年間國交斷絶してゐたロシヤを一九三三年（昭和八）十一月承認し、更に一九三五年（昭和一〇）七月に米露通商條約をも結ぶに至つた。かく米露の接近は極東に於いて特に注目さるべき現象ではあるが、さればとて積極的に東洋に於いて行動を起さんとするのではなく、支那事變のさ中、一九三七年（昭和一二）十二月の揚子江に於けるパネー號事件に對しても冷靜なる態度を取つてゐる。それも一は一九三七年（昭和一二）五月一日新中立法の制定によつて、外部の紛爭から米國を庇護すべき體系が作り上げられてゐるからであるが、同年下半期に於ける國際紛爭、特に支那事變の勃發によつて、その安定感に少からぬ動搖を來してゐるからである。

また南米方面につきては、十九世紀末より現世紀にかけて、カリブ海方面に米國が進出したことは中南米に於けるラテン・アメリカ諸國の反感を著しくした。加之、パナマ運河の開通で、米國の東部工業地域と、南米の太平洋岸諸國との距離は數千哩短縮された。米國は是を利用し、且つモンロー主義を南米への干渉の具として、其の勢力を南米に張らんとしたが、それは必ずしも成功とは云はれなかつた。その後一九三三年（昭和八）ルーズヴェルトの大統領就職と共に、米國の對ラテン、アメリカ政策も稍々轉向し、ハイチからは水兵を撤退し、パナマに對する干渉權を棄て、ニカラグアにも不干渉の態度を取り、新たな雰圍氣の中にアメリカの全米大陸に於ける覇權を確立せんとし、一九三六年（昭和一一）二月、ルーズヴェルトは「米大陸平和機構

確立を目標として、中南米諸國を含む汎米會議を開催する」ことを提議し、終に南北兩米のブロックは確立したが、一九三七年（昭和一二）十一月十日、ブラジルの獨裁政治の出現、防共強化により、また重大なる打撃を受けてゐる。

ラテン・アメリカ諸國は英米兩國の商業上の競爭地である。從來南米諸國には豊富な農産物と礦産物を有し、而も生産額の殆んどすべてが海外に輸出されてゐるので、その開發には、米國よりも歐洲諸國、特に英國の資本が多く投ぜられて植民地化した。詳言せば、大戰前は赤道以北をアメリカが、以南を英國が優勢的に支配してゐたが、大戰後は中南米に米國の資本が侵出しつゝあり、ここに英米の競爭が展開された。その最も激しいのは、南米諸國中商業の最も發達せるアルゼンチンである。英國は一九三三年（昭和八）の同國との條約で、各種の商業的利便を得た。一九二六年（昭和元）までの傾向は、全南米貿易に於ける輸入額中、英國のそれは漸次減少し、米國が是に代つて次第にその率を高めつゝあつたが、最近は英國が多少其の頽勢を挽回した。

又此の地方との關係について見逃すべからざる問題はパナマ運河とニカラグワ運河問題とである。

一八九八年（明治三一）米西戰役で、アメリカはフイリッピン諸島を獲て、太平洋上の一勢力となつたので、作戰上大西太平兩洋の迅速なる連絡を得んため、中米に洋間運河を開鑿するの必要を認めた。偶々スエズ運河の成功者佛人レセップスが一八七九年（明治一二）作りしパナマ運河會社が工事半ばにして失敗し、此の後をうけたフランス政府が失敗したので、米國は是を買收せんとしたが、同地はコロンビヤ領であるので同國の反對があつた。その矢先、運河の所在地なるパナマ州がコロンビヤより分離を企てたので是を援け、一九〇三年（明治三六）十一月三日獨立を宣言せしめ、米國は僅に十日の後之を承認し、又五日の後新獨立共和國と條約を結び、運河開鑿の權を得、又運河の兩側に幅五哩の運河地帶を設け、其の使用を永久に米國に許させ、その代償として一千萬弗を同國に支拂つた。

米國はかくて會社を買收し、技術的に充分なる調査をなし、一九〇五年（明治三八）より運河工事を始め、一九一四年（大正三）八月略之を完成したが、一九一六年（大正五）米國は此の運河を以てしては將來、巨艦交通の需要に適せざるべきを思ひ、ニカラグワ共和國と條約を結び、同國内に新運河を開鑿する權利と、大西太平兩洋岸の海軍根據地とを得た。實にパナマ運河は、現在米國大航空母艦サラトガ、レキシントンの如きはその閘門にて僅に四、五フィートの餘裕しかない。此の運河に複線をつけるのも軍事上不利なので、他に運河をつけることを考へついたのであるが、此のニカラグワ運河は長さ百八十四哩、工費七億二千二百萬ドル、十年乃至十五年の日子を要すと推算され、米國大艦隊の兩大洋連絡の所要時間はパナマ運河に比し二日を短縮すると云ふ利益はあるが、唯二億ドルを投ずれば、パナマ運河を擴張することが出來、その方が有利だといふ說もあるが、事實上船舶を通過させ乍ら工事せねばならぬので技術上難點があり、未だ着工の運びには至らない。而して長い間ニカラグワ國に駐した米國水兵を一九三三年（昭和八）の初に撤退した。

なほ又東洋では年來懸案であつたフイリッピン獨立法案を一九三四年（昭和九）三月可決し、その翌年九月フイリッピンは完全獨立ではないが、獨立して大統領ケソンを選擧するに至つたことは、現民主黨政府の對外和平方針を示すものとして注目されてゐる。

併し米國は一方海軍擴張をも忘れず、更に一九三七年（昭和一二）支那事變起きるや、同島の完全獨立期限を延長し、陸海軍備の充實に專心して不安な世界情勢に備ふることを閑却してはゐない。卽ち對外的紛糾を避けて一意國內强化に努めつゝあるのがアメリカの現勢である。更に一九三六年（昭和一一）十一月の大統領選擧にルーズヴエルトが再選され、民主黨の天下が持續することゝなつたため、對外政策は依然平和的である。一方ロシヤに對し親近を示してはゐるが、米國內の赤化的運動に關しては、一九三五年（昭和一〇）八月のコミンテルン大會の決議に對し痛烈な反對通告を敢行して憚らなかつた。

b 露國

國內を固めて外國との紛糾を避ける方針は、ロシヤにあつても同樣である。

大戰のさ中、一九一七年（大正六）三月八日食糧暴動が首府のペトログラードで勃發し、漸次地方にも蔓延した。さうして之が鎭壓を命ぜられた軍隊は却つて暴民に加擔し、上官に發砲するに至つた。皇帝のこれが對策成功せず、同月十五日帝位を辭したので大戰前のロシヤは一旦崩壞し、ルヴオフ公の假政府が出來たが、此の頃勞働者と兵士とが聯合して出來た勞兵會（ソヴイエート）の勢力が擴がり、更にスイスに亡命してゐたレーニン等が是を盛大にし、バルト沿岸諸國が獨立を宣言した。併し同內閣は間もなく瓦解し、七月陸相なりしケレンスキーの內閣が出來たが、過激派は同內閣の漸進主義を喜ばず、同年十一月七日革命を起し、過激黨の領袖レーニン、トロツキー一派がケレンスキー內閣を仆してペトログラード、ソヴイエートが政權を握つてから、漸次反對黨を破つて全歐露を赤化し、ソヴイエート共和國を各地に樹立した。やがて一九一八年（大正七）三月三日、後のポーランドのブレスト・リトウスクに不利の條件で對獨單獨講和をなし、かくして一九二三年（大正一二）七月社會主義ソヴイエート共和國聯合（Union of Socialist Soviet Republics）ができた。略してソヴイエート聯邦といふ。此の國の憲法は一九一八年（大正七）制定され、更に一九二〇年（大正九）から二三年（大正一二）に至る間屢々增補改訂された。憲法上聯邦內の諸民族は自治權を享有してゐるが、實際は武斷政治で、共產黨が全聯邦に對し獨裁權を振うてゐる。共產黨は諸外國の議會政治に於ける政黨ではなく、寧ろキリスト敎徒に比すべき「信者の團體」と考へられる。黨員の數は全聯邦內の人口一億六、七千萬中約二百萬を占めるに過ぎぬ。此の政府は帝政時代のやうに、全領內の人民を文化的にロシヤ化しようとはしないが、共產主義だけは勵行して領內のみならず世界各地に思想侵略をなし、世界革命に步を進むるに努めた。併し此の間に當初の赤化運動は失敗に終り、終に共產主義に若干の修正が加味されたが、一九二一年（大正一〇）ヴオルガ河地方に大飢饉ありしため農民一揆が起り、又フインランド灣頭のクロンスタットに水兵の叛亂が起つた。そこでレーニンは同年三月反對を抑

へ從來の理想の一部をかへ、新經濟政策卽ちネツプ N. E. P. New Economic-al Policy ノ頭字 が出來、着々功を收めた。この修正のため、貧富の別が生ずるに至つたので、これが施行について、一九二四年（大正一三）正月レーニンの死後當局者間に內訌を生じ、一九二七年（昭和二）よりトロツキー等遂はれてスターリンが全權を握り、所謂一九二八年（昭和三）十月一日より一九三三年（昭和八）九月三十日迄の「五ヶ年計劃」をもつて、大發電所の建設、是により農工業の合理的經營をなし、敎育を盛んにし、軍備を修めた。列國はいづれもロシヤの共產的革命の波及を怖れて、戰後一九一九年（大正八）十月聯合國は對ロシヤ經濟封鎖を發表してより、數年間一もモスコー政府を承認せず、これがために歐洲の經濟復興は大いに妨げられたが、一九二四年（大正一三）二月一日英國の勞働黨內閣は率先して是を承認してより、他の諸國も漸次これに倣ふに至つた。

ロシヤは中央執行委員長スターリンの下に一九二八年（昭和三）以來第一次產業五ヶ年計劃を實行し、更に一九三三年（昭和八）第二次五ヶ年計劃に着手し、其の結果國內產業の發展は實際は不明だが大いに進んだ樣に云はれてゐる。又他方一九三七年（昭和一二）十二月には滿洲里の西北カリムスカヤより松花江口ハヾロフスクに至るアムール鐵道の複線は完成したのである。

かく產業に、軍備に國內の實力を充實すると共に、國際外交上にもその活動は目覺しいものがある。卽ち一九三二年（昭和七）には、佛、伊、波、支那その他諸小國との不可侵條約を結んで相互の親善を固め、翌年十二月には米國よりソヴイエート政府承認を得て兩國の提携を密にし、一九三四年（昭和九）には國際聯盟に加入してその重要位置を占め、他方一九三五年（昭和一〇）フランスとの提携を固め、英國とも親善關係を結んで、自らドイツに備へる形勢を示した。

露國にはその政府の別働隊とも云ふべき第三インターナショナル（世界各國共產黨聯合會）なるものがある。是は共產主義宣傳と相伴ふもので、思想的國家崩壞運動でもあり、二十世紀の國際局面に新しく躍り出た一大攻勢である。露國はスターリン出現以來、一國社會主義を奉じてソヴイエート主義の世界宣傳を抑へコミンテルンの國際的活動も一時中止された。彼は國內の產業殊に重工業振興に全力を注ぎ、外には寧ろ協調主義を奉じたので國際聯盟にも加入した程であつたが、最近漸く對外攻勢に至るにず轉つた。一九三五年（大正一〇）夏コミンテルン大會に於ける決議はその端緒を示すもので、コミンテルンは爾來積極的に世界赤化に乘り出すことになつた。乃ちコミンテルンの共產主義を緩和して他の左翼的諸團體と提携して、帝國主義的勢力に對する共同戰線を張ることゝなり、茲に所謂人民戰線運動が各國に波及するに至つた。

この人民戰線運動は一九三六年（昭和一一）春、佛、白、西の三國に擴がり、フランスでは同年六月經濟界に支援なきブルーム內閣が出現し、右翼の諸勢力は大いに彈壓され、又イスパニヤでは同年一月左翼內閣が成立し、右翼に對して彈壓を加へたゝめ、七月に內亂が破裂するに至つた。一方露國ではスターリンを首腦者とする現政權に對する陰謀が、正統共產派なるトロツキー等によつて企てられたが、遂に發覺して、國內にある陰謀者ジノヴイエフ等は八月死刑に處せられた。但、この反政府陰謀はドイツのナチス黨と連絡ありとて

ドイツ人の處刑や迫害が行はれ、露獨兩國間の反感を劇載したことは夥しかつた。

更に一九三七年（昭和一二）暮頃より政府の高官のその勢を忌まれて銃殺されるものが多く、昨日の大官が今日は殺されるといふことで、對外信用を非常に失墜してゐるが、矢張り是が相繼いで行はれてゐる。又露國政府は自ら在外領事官、特に日獨伊に於ける領事館を自發的に撤收して領事館相互同數の原則を主張するのみならず、他の列國にも適用し、次第に孤立に墜ることゝなつた。其の後獨墺合併成り、スペインの內亂では革命軍の進軍悽じく、いづれも獨伊の發展に驚異の眼を開き、又本年一九三八年（昭和一三）三月十日の夜ポーランド及昔のポーランド領リトワニヤ兩國境で兩國軍隊が衝突し、ポーランド兵一名戰死したことよりポーランドの國論沸騰し、兩國は一觸卽發の危險にあり、チエコ・スロヴアキヤはポーランド、ドイツ、ハンガリーに三方包圍され、露國と協商せるフランスは政變が頻發してあてにならず、かく露國の同盟國（リトワニヤ、イスバニヤ、チエコ・スロヴアキヤ、フランス）四國が悉く無力で今では非勢打開を焦つてゐる。

c　日米露の關係及東洋

極東に於ける最も注意すべきことは云ふまでもなく帝國の發展である。

帝國は滿洲事變發生後における極東の事態の變化並に世界各國の帝國に對する高壓的態度によつて軍備の充實を緊要ならしめたが、米國もこれによつて海空兩軍の擴張を圖り、太平洋方面の警戒に努めてゐることや、滿洲國成立による帝國の北滿洲への勢力增進によつて、露國との關係は微妙な狀態にあるが、最近のシベリヤ鐵道全線の複線工事の完成や、米露の國交恢復は將來に種々な問題を提供する。

經濟日本の世界的進出は既に述べたが、支那問題に於ける帝國の積極的態度は確かに國際局面への重大な刺戟であつた。帝國に對する支那の不法な態度と列國の極東情勢に對する無理解とは、帝國の自主的態度を世界に表明すべき機會となり、一九三一年（昭和六）九月十八日夜十時過ぎ奉天の北方北大營の旅長王以哲の部下が柳條溝附近の滿鐵線路を爆破したに端を發し新形勢は展開された。

當時支那各地の割據的勢力と南京を中心とする國民黨中央政府の統一方針との紛爭より、更に排外政策に拍車をかけられて、支那が漸次國民的意識に覺醒されつゝあつた。この時特に帝國に對しては政府は惡辣な排日政策をとつたので、それがやがて滿洲事變、上海事變となり、更に歐米列强が自國の利害を重んじて支那擁護の立場をとるものが多かつたので、帝國の決心は固められ、遂に一九三三年（昭和八）二月二十四日の國際聯盟脫退にまで進展するに至つた。

帝國は歐米各國の反對を斥けて一九三二年（昭和七）九月十五日斷然滿洲國を承認し、ついで特命全權大使を派して新興國の健全な發達を援助したが、一九三三年（昭和八）二月滿洲國の治安を擾亂する熱河省の匪族を討伐して三月四日その首府承德を占領し、熱河省は滿洲國に編入された。支那は歐米諸國の後援を恃んで反抗を續けたが、その恃み難きを悟つて屈し、遂に日支停戰は五月三十一日成立した。

以上によつて日支間の紛爭は一應解決された觀があるが、東亞の平和を大本とする帝國の大方策に對して支那の態度は全然和協的でなく、反日的行動に出ることが少くなかつた。一方滿洲國は順調な發達を遂げつつ、遂に一九三四年（昭和九）三月一日滿洲帝國の建設成り、滿洲國皇帝の卽位を見るに至つた。さうして中米のサルヴアドル國及びドミニカ國は一九三四年（昭和九）五月及び八月夫々滿洲國を承認した。其の後是を承認するもの多く、特に帝國が防共協定を獨伊と締結するや殊に著しく、イタリヤは一九三七年（昭和一二）十一月二十九日、ドイツは本年一九三八年二月二日、ポーランドは二月十一日是を承認した。越えて五月十二日日滿獨修好條約が成立し、やがては滿伊協定も成立せんとしてゐる。

是より先、支那は對日態度を一時改めて親日に傾き、一九三五年（昭和一〇）三月には日支兩國間に大使を交換するに至つた。然るに此の頃より北支方面に反日運動が再び起り、北支の形勢不安を憂慮されてゐたが、同年十一月に至つて南京中央政府の親日方針にも動搖を生ずるに至つた。かゝる間に北支一部地方の人民は、一九三五年（昭和一〇）十一月遂に自治を宣言して中央政權より離脫し殷汝耕の冀東自治政府が出來上つた。かくて中央政權は事實上北支方面に及ばぬことゝなり、同政府及び宋哲元を首腦とする冀察政務委員會が成立して、北支五省の自治が實現されたが、併し後者は中央勢力のため軟化せられて了つた。ついで十二月內蒙古も自治運動を起して目的を達した。

一方蔣介石を首腦とする中央政權は、從來一敵國の觀をなしてゐた西南派の勢力に大打擊を與へた。卽ち一九三六年（昭和一一）五月廣西派は軍事行動を起して中央軍と戰つたが、廣西、廣東兩派の結束が亂れて遂に中央軍の乘ずる所となり、同年七月西南派の諸軍は潰滅して了ひ、蔣介石の勢力は西南方面にも及び著しく强化された。

ついで一九三六年（昭和一一）八月頃から西南支那各地に抗日熱が熾んとなり、成都に於ける帝國領事館再開に關して、邦人虐殺事件勃發し、その他海南、漢口、上海等にて續々邦人殺傷事件の起るあり、而も支那側の態度は誠意を缺き、爲に日支兩國政府の交涉も爾來停頓した。その後十二月中旬、張學良が西安に於いて兵變を起し、國民政府の首腦者蔣介石を監禁すること二週間、國民政府に對し、帝國に對する卽時開戰等の要求を提出した。國民政府は是に對し强硬態度を持し、一方では平和的解決に努力し、ついで無事救出するを得た。この兵變は或は共產軍との連絡あるものと云はれ、支那に於ける人民戰線派の發現とも見られる。元來支那共產軍は四川、雲南地方に勢力を有してをり、是を利用して蔣介石は北支方面に臨まうとしてゐたのである。かくて內蒙古は一九三六年（昭和一一）十一月兵を擧げて共產軍に抗し綏遠地方に戰ひが行はれた。

上述の如き混沌たる極東の情勢に於いて、帝國は平和を維持するの礎石として儼存してゐる。然るに歐米列强中には帝國の態度に對し警戒するもの多く、ロシヤの如きは支那と結んで屢々帝國牽制の態度に出た。但、一九三五年（昭和一〇）三月、年來の難問題であつた北滿鐵道をロシヤより滿洲國に讓渡するの件が帝國の斡旋により無事解決したことは、日滿露三國の和協關係を促進するに與つて力があつた。なほ支那に對する英

米兩國の投資事業等の活躍も看過し難いものがある。

かく支那を繞つて世界列強の交渉關係頗る複雜な時、一九三七年（昭和一二）七月七日の北平の郊外に於ける盧溝橋事件に端を發して、日支の全面的衝突となつた。此の間、日獨伊三國の固き握手が、此の事變に於いて如實に表現された。在支獨伊兩國武官の引揚げもそれである。特に國際聯盟は一九三七年（昭和一二）十月六日の決議に於いて、ベルギーの首府ブラッセルに九ケ國條約調印國及び東洋に利害を有せる國々十九ケ國が、九ケ國條約第八條により會合したが、そのうちイタリヤ代表マレスコッチ伯爵は「會議は無期休會は當然であるのみならず、全然解散して了ふのが至當である」とし堂々反對運動をなして帝國擁護の地位に立ち、此の間、露國、支那の活動は相手にされなかつた。本來がルーズヴエルト米大統領の十月五日のシカゴに於ける演說に刺戟され、アメリカとの提携を期待して一應は此の十一月五日のブラッセル會議まで帝國を牽制するべく潛ぎつけた英國ではあつたが、その間にルーズヴエルト大統領の態度は豹變し、會議は片々たる對日非難宣言を出したのみで十一月二十四日大した結果なく無期休會に入ることゝなつた。帝國政府は勿論、此の事態に卽せざる、生命を失へる九ケ國條約により開催された會合で、代表派遣は勿論、かゝる條約や宣言に拘束される要はなかつたのである。

英國はその後米國との共同歩調を實現しようとし事態收拾に苦慮してゐる。更に本年一九三八年一月二十八日英、佛、露の三國は對支援助を聯盟の埒外でなすことゝなつたが、英國を除く他の二國は國內事情が不安定であり、アメリカはフイリツピン、ハワイの防禦線さへ放棄し、是に代つて太平洋岸强化に萬全の策を取らんとすることゝなつたので、英國の支那に於ける活動は益々蹙らざるを得ない。

支那事變下に於ける利害問題に關する所大なるものは英露の二國である。英國はその投下資本の保全のため、露國は從來の思想侵略方針にて、特に支那共產軍と蔣介石政權とが握手せる今日强き後援を支那に與へてゐる。吾人はあくまで東洋の平和實現を翹待し、東洋の安定に邁進せねばならない。

昭和十三年六月五日稿了

昭和十三年七月一日印刷
昭和十三年七月十五日發行

非賣品

著作兼發行人　今治市日吉甲五五一番地　曾我部重太郎
印刷人　今治市大字今治村甲六〇七番地　窪田佳津見
印刷所　原商會印刷部
發行所　愛媛縣越智中學校